平成30年度　京都市埋蔵文化財出土遺物文化財指定準備業務報告書

京都市文化市民局

平成 30 年度　京都市埋蔵文化財出土遺物文化財指定準備業務報告書

御土居跡（西九条周辺）出土品

2019

京都市文化市民局

平成 30 年度　京都市埋蔵文化財出土遺物文化財指定準備業務報告書

御土居跡（西九条周辺）出土品

御土居跡（西九条周辺）出土品　人形頭

御土居跡（西九条周辺）調査３木製品出土状況（北東から）

ご　挨　拶

京都市では、市域から出土した膨大な考古資料の中から、歴史的意義がきわめて高い出土文化財を市指定有形文化財として指定をすることで、長く未来へ残してゆく取り組みを続けてきました。公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、京都市からこの指定に先立つ準備業務の委託を受け、市指定有形文化財の候補となる出土文化財を整理し、その評価を行うとともに、多くの皆様に活用していただけるように目録を刊行して参りました。平成21年度から始まった本事業は10年目を迎え、全国から注目を集めています。

平成30年度の指定候補文化財は「御土居跡（西九条周辺）出土品」です。御土居は、都市京都の外周を囲う土塁と堀で、その築造は、天正19年（1591）に豊臣秀吉がおこなった京都都市改造の一つをなすものです。延長距離は約23㎞、東は鴨川、北は鷹ケ峰、西は紙屋川、南は九条という広範囲を着工から約3か月で完成させるという類を見ない大工事でありました。御土居の内側を洛中、外側を洛外と呼びます。

本指定では、御土居跡の発掘調査で出土した多数の資料の中から、木製品を中心に抽出いたしました。その中には、いわゆる操り人形と考えられる木製人形、経師が用いたと考えられる刷毛類、手工業が盛んであったことを示す篦類、錐、糸巻きなどが多数含まれています。また、墨書資料には荷札や付札が多いことから物資の流通が盛んであったこと、卒塔婆や経木が出土していることから、御土居で精霊流しや流れ灌頂が行われた可能性も指摘できるようになりました。

これらの木製品は、御土居完成後の洛中の環境が、京都の豊かな文化芸術が花開く土台となったことを示していると言えるでしょう。

ここに、その指定候補文化財の写真、実測図、一覧表を公刊し、皆様にご紹介いたします。本書が広く活用され、京都の歴史研究の深化に資することができれば幸いです

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所
所長　井上 満郎

例　言

1　本書は、平成 30 年度に公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が京都市から委託を受けて実施した、埋蔵文化財出土遺物文化財指定準備業務の報告書である。

2　選定の対象とした出土遺物は、京都市内で実施された埋蔵文化財の発掘調査などで出土したもののうち、京都市が保管しているものである。

3　平成 30 年度の指定名称は「御土居跡（西九条周辺）出土品」である。

4　本書使用の地図は、主として京都市発行　都市計画基本図（縮尺 1：5000）を参考に、必要に応じて加筆した。

5　本書の掲載番号は、指定番号とは異なる。指定番号は一覧表に明記した。

6　指定にあたっての諮問委員は以下の先生方に依頼した（五十音順／敬称略）
　井上満郎、上原真人、瀧浪貞子、和田晴吾

7　本書の作成は、内田好昭、関広尚世がおこなった。

8　本書の巻頭図版に使用した写真は村井伸也が撮影した。目録に使用した写真は関広尚世が撮影し、一部を株式会社文化財サービスが撮影した。

9　墨書資料の釈読は、京都市歴史資料館井上幸治、野地秀俊がおこなった。

10　指定準備作業と本書の作成には、下記の方々のご協力を得た（五十音順／敬称略）
加納克巳、田中正流、山内健也、山路興造、横山 操

11　本指定文化財は 477 点であるが、指定 No.195 と 196 が接合したため、本書の掲載資料は 476 点となっている。

12　墨書資料の釈文は、実測図に併記した。墨書資料の実測図は原則表裏二面の赤外線画像を掲載したが、片面のみに文字がある場合は文字がある面を左側に配置した。

目　次

巻頭図版
本編…… 1
第１章　御土居の概要…… 3

第２章　発掘調査の概要…… 3
1　調査１ …… 3
2　調査２ …… 3
3　調査３・調査４ …… 12
4　調査５ …… 12

第３章　指定文化財の抽出と概要…… 12
1　指定文化財の抽出 …… 12
2　指定文化財の概要 …… 13
①人形類 …… 13
②道具類 …… 14
③装飾部品 …… 15
④用途不明品 …… 15
⑤ミニチュア …… 15
⑥漆器類 …… 15
⑦墨書資料 …… 16

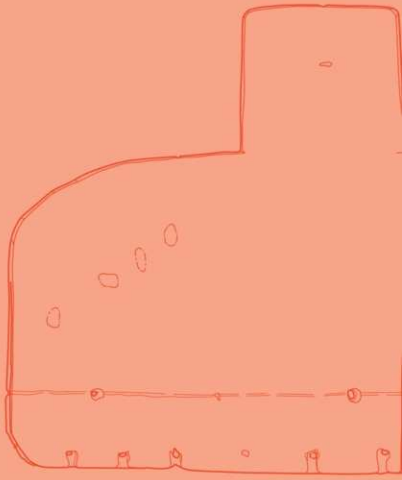
第４章　評価…… 17

文献目録…… 19

図版…… 21

一覧表…… 89

本　編



第１章　御土居の概要

御土居は天正 19 年（1591）、近世都市京都を防衛するために設けられた土塁と堀からなる惣構施設である。その範囲は、東は鴨川、西は紙屋川、北は鷹峯、南は東寺に至る東西約 3.5 ㎞、南北約 8.5 ㎞にわたり、総延長は 22.5 ㎞に及ぶ（図１）。御土居には 10 箇所の出入り口があったとされている。また、御土居の内側を洛中、外側を洛外と呼んだ（西田 1920）。御土居築造は、同時期に豊臣秀吉が行った内裏の拡大、武家公家集住地域の形成、寺町への寺院の集中等と並ぶ京都の近世都市化政策の一環であり、京都改造事業のうちの一つである（小野 1993）。

御土居の築造の主な目的は、洛中の範囲を明示し、外敵から都市民を守り、賀茂川、鴨川などの治水対策を行うことであった。当初は、「土居堀」、「惣堀」等と呼ばれたが、江戸時代に入って幕府が管轄したところから「御土居」という名称が定着した。土塁の取り壊しが早くに始まった場所もあり、江戸時代に入ると、上記の出入り口以外にも洛外へ抜ける出入り口が多数設けられるようになった。明治以降、御土居の私有地化が進み徐々に破壊が進行し、高度成長期の開発によって史跡指定地以外はほとんど姿を消した（中村 2005）。しかし、今なお地中には堀の遺構が残存し、発掘調査によって検出され、堀の埋土からは桃山期から江戸時代にかけての遺物が出土する。

第２章　発掘調査の概要

御土居跡ではこれまで多くの発掘調査が実施されている。今回指定対象の御土居跡（西九条周辺）出土品は、東寺の東側、油小路通沿いに八条通から九条通にかけての地域で実施された一連の発掘調査で御土居の堀跡から出土した文化財である。昭和 55 年（1980）度に実施した調査１、昭和 59 年(1984)度に実施した調査２、平成３年(1991)度に実施した調査３と調査４、平成 26 年（2014）度に実施した調査５がこれに該当する（図２）。各年度の調査成果の概要を調査年次順に概説する。

１　調査１（図３）

調査１は、信濃小路と油小路の交差部付近にあたる。(財）京都市埋蔵文化財研究所が昭和 55 年９月から 10 月にかけて調査した。調査面積は 150 ㎡である。調査区全体で御土居の堀を検出した。堀の検出幅は約 17.5m、深さは約２m ある。堀の埋土は、暗灰色～黒灰色泥土が、粗砂～礫層を挟みつつ厚く堆積していた。この層から木製品と少量の土師器・陶磁器類が出土した。木製品は残存状況が良好でなく、出土層位も明瞭でないため本指定からは除外した。正報告書は刊行されておらず、概要報告がなされている（京都市埋蔵文化財研究所 2011）。

２　調査２（図４）

調査２は、九条通と油小路の交差点の北東部に位置する。(財）京都市埋蔵文化財研究所が昭和 59 年（1984）５月から 10 月にかけて、A 区～ D 区の４箇所を調査した。調査面積は延べ 3,940 ㎡である。このうち御土居の堀跡を検出したのは、油小路沿いの「C 区」であり、これを調査２とした。検出した御土居の堀は、幅約 20 m、深さ約 1.5 m ある。全長 46 m 分を検出している。埋土の大部分は泥土で、そこから多量の木製品、少量の土師器・国産陶磁器・瓦・銭貨などが出土した。底面には連続した窪みを検出し、これを堀の掘削時の作業単位と推定している。正報告書は刊行されておらず、概要報告がなされている（丸川ほか 1987）。また、本調査出土の木簡の一部がすでに紹介されている（京都市埋蔵文化財研究所 1986、梅川 1985）。

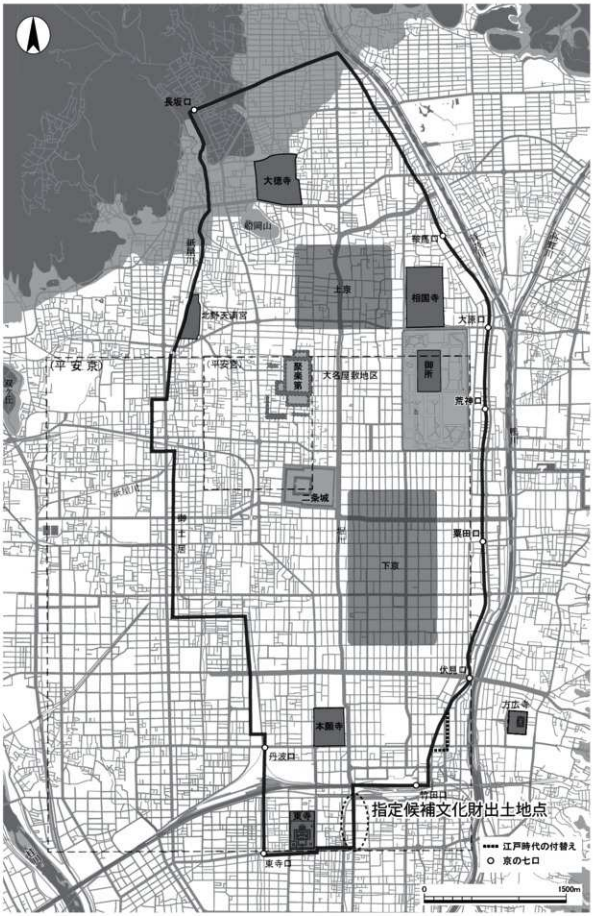


図1　御土居と指定候補文化財出土地点（1:40,000）

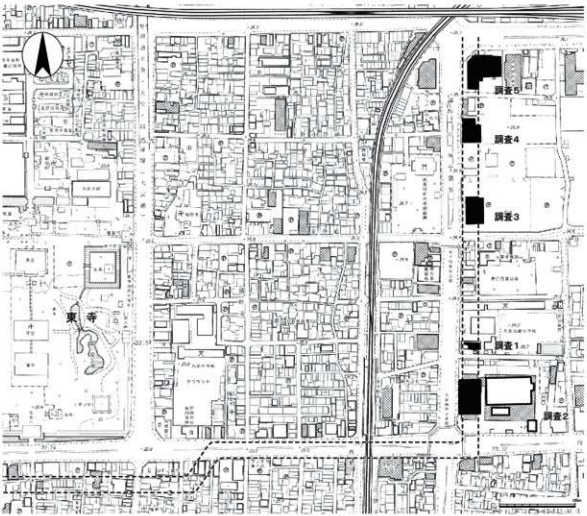


図２　調査位置図（1:5,000）

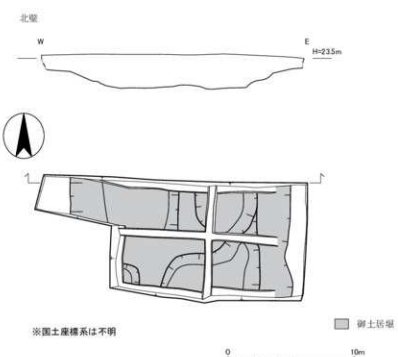


図３　調査１遺構実測図（1:300）

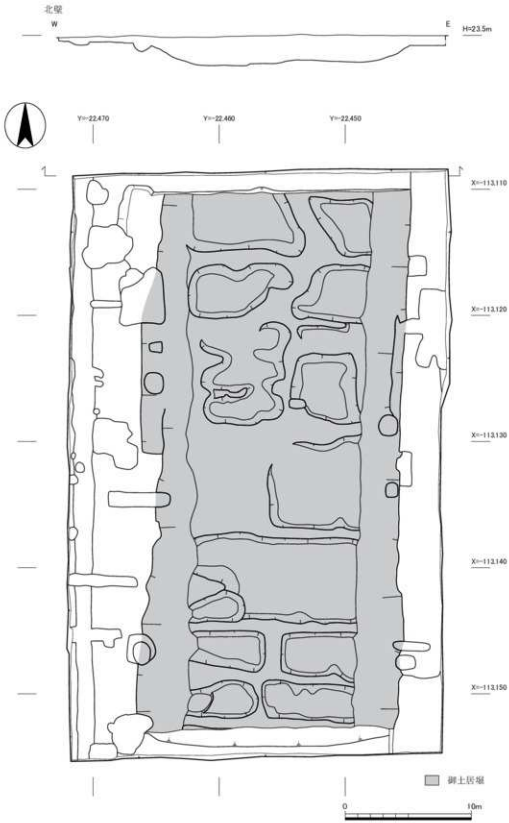


図4　調査2遺構実測図（1:300）

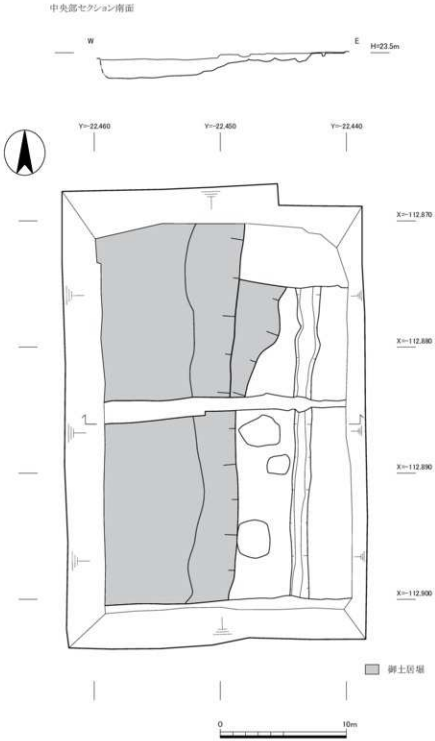


図５　調査３遺構実測図（1:300）

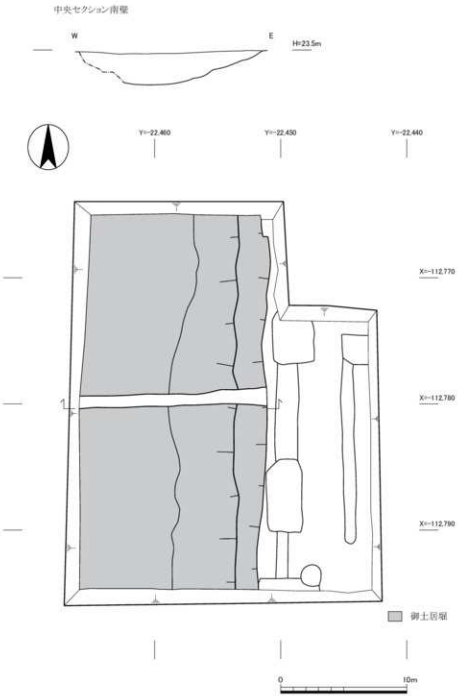


図6　調査4遺構実測図（1:300）

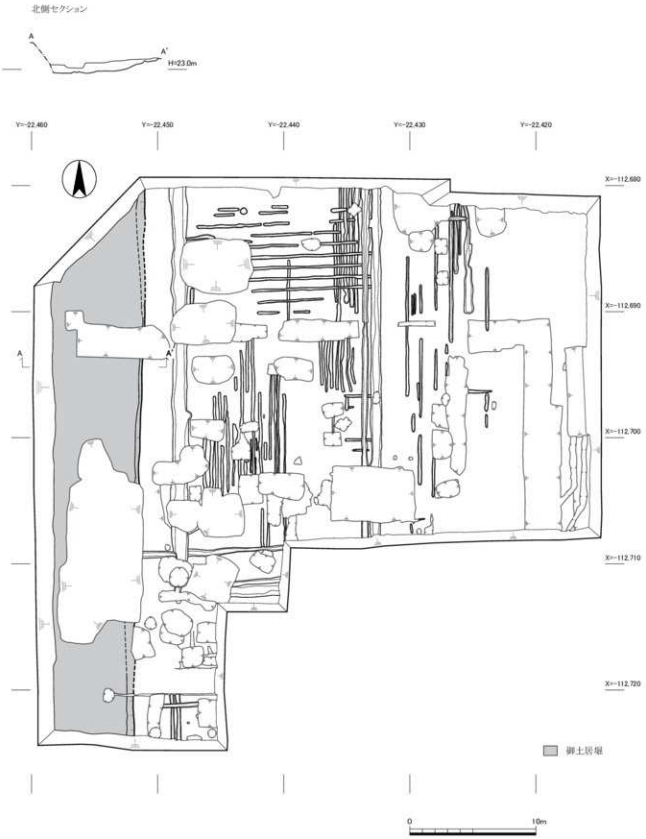


図7　調査5第1面遺構実測図（1:300）

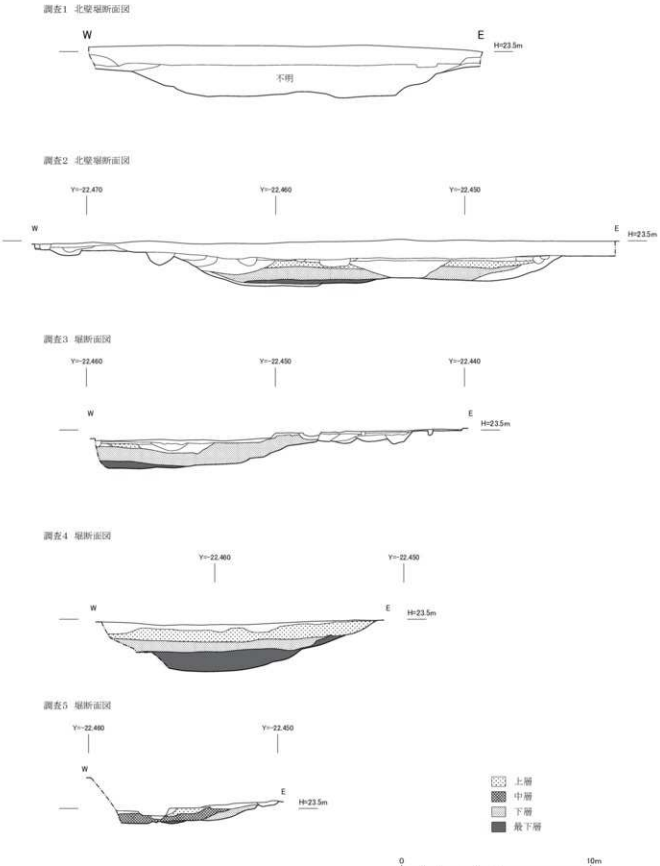


図８　御土居堀土層断面図（1:200）

図９　調査３で検出した御土居の堀跡（北から）

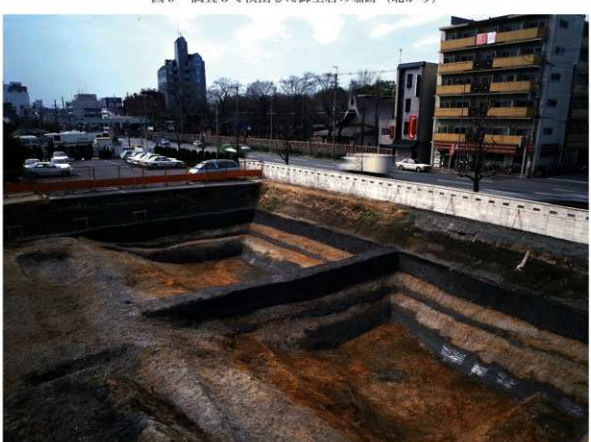


図10　調査４で検出した御土居の堀跡（北東から）

3　調査3・調査4（図5・図6）

調査3と調査4は連続する調査であり、概要報告の記載も一連であるため、まとめて記述する。調査3は、東寺道と油小路の交差部付近にあたる。（財）京都市埋蔵文化財研究所が平成3年5月から10月にかけて調査した。調査面積は840㎡である。調査4は、針小路と油小路の交差部東側にあたる。（財）京都市埋蔵文化財研究所が平成3年11月から平成4年3月にかけて調査した。調査面積は620㎡である。両調査とも御土居の堀は東肩及び底部を確認し、西肩は調査区外である。したがって堀の幅は不明であるが、両調査区とも16 m以上ある。また、両調査区とも南北約30m分を検出した。堀の埋土は、泥土で上層と下層（図8の最下層）の2層に大別でき、主に下層から木製品と陶磁器類が出土した。堀底面には幅1.5 m～2 mの凹凸があり、開削時の作業単位と推定されている。正報告書は刊行されておらず、概要報告がなされている（菅田1995a）。

4　調査5（図7）

調査5は、油小路と八条通の交差点南東部にあたる。（公財）京都市埋蔵文化財研究所が、平成26年5月から9月にかけて調査した。調査面積は1,521㎡である。御土居の堀は東肩のみを確認し、西肩は調査区外である。したがって堀の幅は不明であるが、東西約7 m以上、南北約43 m分を検出した。深さは約0.75 mである。堀の最上層から中層にかけて人骨や動物骨が出土し、それより下層から土器類、木製品が多量に出土した（松吉ほか2015）。また、出土木簡の一部がすでに紹介されている（松吉2016）。

第3章　指定文化財の抽出と概要

1　指定文化財の抽出

今回指定の対象となった御土居跡（西九条周辺）出土品は、出土調査区が4箇所に分かれており、またほとんどの調査区において正報告書の刊行がなされていない。このため、多量の出土遺物の中から、改めて指定候補とすべき遺物を抽出する作業を行う必要があった。そこでまず、指定候補とする遺物の年代を御土居築造時の16世紀末から江戸時代前期頃までに限定することとし、遺物の出土層位ごとの整理を行い、各層位の年代を出土遺物から明らかにすることとした。しかし、共伴する土器陶磁器類はいずれも細片で、これらから各層位の年代を知りえなかった。そこで、墨書資料に記された紀年銘等の情報を手掛かりに各層位の年代を決定することとした。ところで、堀の埋土の層位記載は調査区ごとに個別に行われているため、各調査区に通底する基本層序は把握されていなかった。そのため、今回の整理作業において、図面等に記載された土色と層相、及び標高を手掛かりに基本層序を復元した（図8）。

こうした作業の結果、堀埋土の比較的上位にある調査3の堀埋土第3層から「正保四年」（1647）銘の木簡が出土していること、これと同層準と思われる調査2の堀埋土第2層上部から「□寶三年」銘の木簡が出土しており、これが「延寶三年」（1675）の可能性が高いことから、これらの地層が17世紀の第3四半期頃に堆積したものと推定できた。この層準を「上層」と呼び、これらの地層より下位の層準（中層、下層、最下層）出土の遺物を御土居が築造された天正19年（1591）から17世紀第3四半期の時期幅の中に納まるものと判断し、指定遺物の選定対象とした。これらの層準より上位から出土した遺物も多数あるが、江戸時代中期以降に下るものと判断し、基本的に今回の選定対象から除外した。

さらに上記対象資料から、残存状況が良好であるものや用途が推定できるもの、加えて用途が不明でも形状が特徴的であり、今後の研究によって有意な遺物として評価される可能性があるものを選定した。

ただし、例外がある。調査2では、御土居が埋没した後に再度掘り込まれた小溝が検出されている。ここから出土した人形頭（6）は、江戸時代中期以降に下る可能性があるが、優品であることに加えて、今回選定した16世紀末から17世紀後半の人形頭群を評価する上で欠かせない遺物と評価し、江戸時代中期以降の遺物としては唯一指定文化財に選定している。

なお、以上の抽出作業は、すでに活用度の高い遺物として抽出されていた遺物群（A・Bランク）を対象に行ったが、活用度が比較的低い遺物群（Cランク）に区分されている遺物には箸や付け木、曲物破片などが多数ある。今回の指定遺物群はやや特異な様相を示すものであるが、同時にこれらの日常的な木製遺物を伴って出土していることを付記しておきたい。

2　指定文化財の概要

今回、指定遺物の候補として、総数477点を選択した。ただし、2点が接合し同一個体となった資料も含まれる（469）。その大半は木製品であるが、錐（207・208）・煙管（209）・小刀（210～213）など一部に金属部分または金属製品を含む。それらを①人形類、②道具類、③装飾部品、④用途不明品、⑤小型品（ミニチュア）、⑥漆器類、⑦墨書資料に大別した。

なお、用途不明品のうち、漆が施されていないものは用途不明品、漆塗が施された痕跡が認められるものについては、漆器類に分類した。ただし、用途が推測できるものについては別のカテゴリーに区分したものもある。

①人形（にんぎょう）類

人形類は99点（1～99）ある。

人形には、頭部のみを表現したものや、棒状を呈するものなど多種多様な形式と部位がある。それらを1～7類に分類した。既往の議論で用いられた名称も併記する。

1類（1～58）は、いわゆる人形の頭部から首部で、頭部と首の形状が明瞭に分かれるものである。1a～1d類に細分できる。1a類（1～9）は、首底に大きな穴（φ10㎜以上）を有するものである。目、鼻、口、耳などの細部表現が巧みで、一部の頭部には頭髪を植え込んだ連続する穴や溝を有する。人形類一覧表1～3では、この穴への植毛を木釘式とし、溝への植毛を楔式とした。いわゆる「操り人形」や「古浄瑠璃人形」と呼ばれる形式である（加納2007）。1b類（10～41）は、刺突状の細い首底穴（φ10㎜未満）を有するものである。目、鼻、口、耳などの表現が簡略で、省略されているものも多い。全体を胡粉で白塗りし、墨や絵具で表情を描き込んだものと思われる。「串人形」と呼ばれる形式である（加納2007）。1c類（42～56）は、首底に穴がないものである。頭部表現などは、1b類に共通する。「ハサミ式」と呼ばれる形式である（加納1991・2007）。1d類は1b類・1c類の未成品である（57・58）。

2類（59～63）は、手や足など人間の体の一部を示すものである。60は男性器、62は足、63は手、59・61は足の可能性がある。63は腕部の根元に竹ひご状の細い棒を貫通させる程度の斜めの穿孔があり、操り人形の手と考えられる。

3類（64～67）は、棒状の製品で一端を鉛筆状に尖らせている。これを操り人形の胴串と考えた。胴串とは、人形の頭を支えた胴体部品である（加納2007）。一端には串穴のあるもの（65・66）と無いもの（64・67）があり、もう一端は尖るのが特徴である。

4類（68～73）は、首が長く胴部と一体的に表現されるものである。顔の表現が単純化されている。いわゆる「細棒型」、「棒型」と呼ば

れる形式である（加納1991）。

５類（74～85）は、全身像を表すものである。背面が平坦で、前面のみから見られるものである。合掌する姿や僧形に見えるものがあり、念持仏の可能性もある。首と手が差し込み式になっているものもある（85）。

６類（86～91）は、動物を表現したものである。サルやタヌキに見えるもの（86・88）、ネズミと思われるもの（87・91）、大小のウマの脚がある（89・90）。

７類（92～99）は、１～６類以外で人形や人形に関連する部分と考えるものである。92は人形が付けた面である。

１～５類は、基本的に人を象ったものである。頭部から頸部を表す１類が大半を占め、４類や５類のような全身像やそれを模式化した人形の割合は低い。２類とした手には小穴があることから、これに串を挿し動かすことで、１類の人形に動きをつけたと考えられる。また、頭部から頸部以外は衣装などで覆われた人形であったと推測される。

②道具類

道具類は、131点（100～230）ある。

刷毛類（100～113）には、多様な形状がある。

いわゆる「糊刷毛」・「水刷毛」・「切り継ぎ刷毛（付け廻し刷毛）」・「棕櫚ナデ刷毛」・「打刷毛」・「中糊刷毛」・「水糊刷毛」に共通する特徴は、柄が短く、板の幅が広い点である（100～104）、これに対し紙へのにじみ防止のための礬砂びきを行うための「礬水刷毛」は柄が長く、板の幅が狭いのが特徴である（105～110）。

また、箒状の棕櫚束は柄の部分まで繊維で構成される。中国系刷毛の可能性もあるので掲載した（111・112）。113は、これに関連する紐の可能性がある。

筥類（114～140）は、筥先の形状によって、平筥、片丸筥、丸筥と分類した。平筥（114～127）は筥先が平坦で柄の先端が尖るものである。筥先に赤漆がついているもの（114・115）と、黒漆がついているもの（116～125）がある。漆の塗り筥である。片丸筥（131・134～138）は片側が半円状の刃部を呈し、もう一端は平坦な背を設けるものである。半円の曲縁部分に刃部が明瞭なもの（131・136・138）と、不明瞭なもの（134・135・137）がある。丸筥（139・140）は刃部を持つ筥先が丸い。上記の分類に属さない筥（128～130・132・133）もある。

糸巻き（141～155）は、横木（141～149）と枠木（150～155）がある。横木が刺さったままの枠木もある（150）。横木の中には墨痕がのこるもの（142～144）もあるが、釈読不可能であった。なお、「拾五」の墨書がある横木（452）は墨書資料に区分した。

円板（156～176）は、直径３～５㎝の円形もしくは隅丸方形の小型の円盤である。中央に孔が二つある双孔円板（156～161）、一つのみの単孔円板（162～172）、穴がない無孔円板（173～176）がある。用途は不明である。

灯火器の一部と考えられるものが３点（177～179）ある。

栓（180～189）は片側へすぼむ形状の栓と（180～188）、受け部を持つものがある（189）。片側へすぼむ形状の栓には貫通する孔があるもの（184・185）がある。また、栓をした際の圧痕が認められるもの（186）がある。

木製容器の底部や蓋が６点（190～195）ある。円形のもの（190・191・193・195）は小型の曲物の一部と考えられ、赤漆が塗布されたものもある（195）。六角形で中央に４箇所穿孔したものがある（192）。隅丸方形になるとみられるもの（194）は折敷の可能性がある。

杓子（196）は、裏・表に黒漆が塗布される。杓文字（197）が１点ある。

蓋類（198・199）には、把手がつくものと（198）、焼印がおされているもの（199）がある。

把手類（200・201）は、円形容器の側面に水平に取り付くものである。2点は形状がよく似るが、大きさが異なり、それぞれ別の容器本体についていた把手である。

木槌（202）には、片側に柄を差し込むためのほぞ穴がある。

円盤（203）は、単孔で直径が約7㎝ある。紡錘車と考えられる。

印形の木製品（204）は印面にあたる部分に何も刻まれていない。

棒状品（205）は、平坦部に等間隔の刻み目を有する。彫（きざ）と考えられる。

題箋軸（206）の題箋部は無文である。

錐（207・208）は、木製の柄に鉄製の先端を装着したもので柄の短いもの（207）と長いもの（208）がある。

煙管雁首（209）が1点ある。

刀子（210～213）は、刀身と柄からなるものと（210・211）、柄のみのもの（212）、鞘（213）がある。210・211は、刀装具の斧の類であろう。

装飾板（214～216）には、中央に楕円もしくは長方形の孔を有する。鍔の可能性がある。装飾は、四弁花（214）、直線的な八角形（215）、菊形を彫刻したもの（216）がある。小振りであることから、玩具か人形廻し用小道具である可能性もある。

木球（217～219）は毬杖の球であろう。

220は独楽である。

賽子は1点出土した（221）。

将棋の駒（222）は、墨痕があるが釈読不能であった。

下駄（223～228）は、一木つくりのもの（223・225・226）と差し歯のもの（224・228）がある。227は、漆塗りで下駄以外の製品の可能性がある。

櫛（229・230）には、赤漆塗に金泥で文様を描き、目の細かいのもの（230）がある。

③装飾部品

装飾部品は、21点（231～251）ある。

花や葉などの何らかの造形を彫刻したものが大半である。これらは調度や小建築などの装飾と見られる。線描きによる装飾を有するものがある（248・249）。いずれも丁寧な造りである。また、墨書きの珠鬼（たましず）または鵜を表すもの（250）や、墨書きと彩色で花や格子文を表すもの（251）がある。

④用途不明品

用途や部位など不明な木製品47点（252～298）がある。

用途不明品には、栓状のもの（252～255）や、箆状のもの（270・279～283）、枠木状のものなど（287～290）形状は様々である。

⑤ミニチュア

ミニチュア12点（299～311）がある。

木札には、赤漆塗（299）のもの、鉤状の焼印が押されたもの（300）、無文のもの（301）がある。車輪形の一部と推測される断片（302）や船形（303）がある。また、挽物の椀には胴部が垂直で、桶状を呈するもの（304・306）、胴部が湾曲して高台を持つもの（305）、胴部が湾曲してベタ高台ないし蛇の目高台を呈するもの（307～311）がある。人形芝居の小道具類の可能性もある。

⑥漆器類

漆器類は57点（312～368）ある。

漆器類は、椀皿類と箱物部材となる板状品や調度の部品類に分かれる。このうち椀皿類（312～353）はすべて調査2から出土した資料である。漆の痕跡がわずかに認められる挽物（312・313）や南部箔（335・339）、筒状の製品（352・353）など特殊なものもある。

部品類（354～368）は黒漆塗が主体であるが、側面に赤漆が塗られるものもある（357）。

金箔で文様があしらわれるもの（365）がある。

⑦墨書資料

墨書資料は108点（369～476）ある。

墨書資料は掟札・巡礼札（369・370）、付札（371～425）、荷札（426～438）、木製品（439～452）、将棋駒（453～459）、塔婆（460・461）、経木・お守り（462・463）、板状品（464～476）がある。

指定対象資料はほぼ江戸時代前期のものである。このうち、紀年銘のあるものは、「天正十年」（1582年）（442）、「寛永弐拾壱年」（1644年）（400）、「甲午承応」（1654年）（369）、「□〔延カ〕宝三年」（1675年）（371）、「正保四年」（1647年）（378）である。

最も多い形式は付札で、屋号や、地名、数量、人名などを記す。

地名には、「あまへ」（天部）（373）、「三条坊門/西といとおり」（412）、「七条」（433）「四条坊門」（439）、「双林寺」（450）といった京内やその近郊、「たんは」（丹波）（377）、「西世木村」（京都府南丹市）（382）、「栗太郡ふけ村」（滋賀県守山市）（405）、「はやミ村」（滋賀県長浜市）（391）、「大坂」「備前州」（438）、といった京都近国、「江戸銀座」（東京都中央区）（392）、「亀貝村」（新潟市）（415）といった遠国のものなどがある。

荷札は、「御米」（428）、「ミつつけのつほ」（430）、「料紙拾三束」（431）、「真鴨」（435）、「なつとう」（441）、「茶」（444）、「進上　海鼠腸（このわた）」（447）、「ひしほ」（450）といった具体的な品物名が記される。

次に人名が記されている２例について触れておく。これまで「ポルトガル木簡」として知られていたアルファベットが記された木簡（426）については、これまで「pe　せるそ様の　□□　せんか如庵様」、裏面末尾のアルファベットを「mairu」と釈読し、日本語の「まいる」のローマ字表記とされてきた。「pe」をpadore（伴天連）の略、「せるそ」を天正14年（1586）から慶長19年（1614）まで日本に滞在し、主に九州で活動したイエズス会ポルトガル人宣教師のセルソ・コンファロネイロとし、「せんか如庵」を「せんか」なる人物の洗礼名と解釈されてきたものである（京都市埋蔵文化財研究所1986、丸川1997）。

しかし、再釈読したところ、「せんか如庵」は「ぜんかめ屋」と釈読できること、「pe」と裏面の「mairu」のアルファベットの釈読にも疑問が残ることが判明している。

また、送り先が明らかになった荷札もある「京極丹後殿へ遣ス寺内蔵助」「ミつつけのつほ　壱つ　筑後より」と記された木簡（430）の「京極丹後殿」は、第２代宮津藩主京極高広（1599～1677）と考えられ、「寺内蔵助」は高広の孫の寺嶋（京極）高林と考えられる。高広は寛文６年（1666）に息子で第３代藩主高国との不和を咎められ改易。以後、京都の東山に閑居して同地で没した。寺嶋高林は父高国が改易されると、母が伊達政宗の娘であった縁で伊予宇和島藩の伊達宗利に預けられ、家臣となっている。「蜜漬けの壷」が具体的に何か、「筑後」は人か地名かなどは不明であるが、この荷札が孫から京都に住む京極高広へ贈られた荷物であることはほぼ間違いない。

第4章　評価

御土居跡（西九条周辺）出土品は、八条通から九条通にかけて油小路の東側に南北方向に造られた御土居の堀の中から出土している。これらは、近隣の住民によって御土居の堀に投棄されたものと考えられる。しかし、発掘調査では、御土居堀の東側に検出される桃山時代から江戸時代にかけての遺構は耕作に伴う溝や暗渠のみであり、直近には人々の居住の痕跡は見られない（菅田1994、菅田1995a、菅田1995c、菅田ほか1996、小森2000、松吉ほか2015）。桃山時代から江戸時代前期のこの地域を描いた古絵図を見ると、御土居の外側については記載がないものが多く不明である。しかし、やや後の時代のものである「元禄十四年實測大絵図」（1701）に明確に記されるように、この付近の御土居の外側には耕作地が広がっていたと見るのが妥当であろう。

古絵図を検討すると、今回の出土地点にもっとも近接する施設は、御土居の西側直近にある稲荷神社旅所である。また、最も近接する居住域は、旅所の西側に耕作地及び堀川を介してある居住域である。この居住域は、元和6年（1621）から寛永元年（1624）頃の京都を描いたとされる「京都図屏風」（図11）では「九条ノ里」、承応3年（1654）刊行の「新板平安城東西南北町并洛外之図」（図12）では「西九条」とされ、御土居から西に約250mの距離にある。

西九条と今回指定遺物出土地点との間には御土居が介在し、通行に支障がある。しかし、「京都図屏風」、「新板平安城東西南北町并洛外之図」には西九条から旅所南端に通じる道路があり、この東への延長部分に御土居の口が設けられている。平安京条坊では九条坊門小路に該当し、中世から江戸時代前期には「唐橋通」、江戸時代後期には「信濃小路」、現在「東寺道」とされる道路である。これにより、西九条から今回指定遺物の出土地点には、直接的にアクセスが可能である。他方、出土地点から東側で最も近い居住域は、前出「新板平安城東西南北町并洛外之図」で「東九条」とされる居住域で、こちらは御土居から直線距離で約700mあり、やや遠い。出土地点からの距離感からすると、御土居跡（西九条周辺）出土品を投棄した主体は「西九条」の住民である可能性が高い。

これを間接的に補強する資料がある。今回の指定遺物の中にキリシタンに関連するとされるアルファベット木簡がある。従来、この木簡に記された「pe せるそ様」は、イエズス会宣教師セルソ・コンファロネイロのことと解釈されてきた。この釈読には疑問もあるものの、アル

図11　京都図屏風（部分）

図12　新板平安城東西南北町并洛外之図（部分）

ファベットが記された木簡は当時にあっては、キリシタン関連の資料とみなすことに疑いの余地はない。他方、西九条はキリシタンと関りがあることが史料から読み取れる。元亀4年（1573）織田信長の上洛に伴い、宣教師ルイス・フロイスは「この地方にある最も大きな寺の一つで」「東寺という寺のそばにある」「九条という所」に、日本人キリシタンの勧めに従って避難している（柳田訳1978）。東寺の近くの九条とは上記の「西九条」にほかならず、キリシタンの庇護者が存在し、一定数のキリシタンが居住していたものと思われる。また、近接する針小路通堀川東入西福寺境内や西九条川原城町の旧九条小学校内からは、キリシタン墓碑が見つかっている（丸川2016）。御土居跡からキリシタンに関連するアルファベット木簡が出土している事実は、一群の出土木製品が西九条の住民に起因することの傍証となるものである。

近世の西九条村は、幕府領、東寺領などからなる村であるが、中世においては寺院関連施設の間や巷所に東寺領の散所が散在した（山本1998）。東寺の散所は東寺の掃除役、警固役、築地役を果たすことで中央政権の課役免除を認められていた隷属民やその居住区を指す（宇那木2004）。一方、散所については、北野社の西京散所が操の興行をしたこと、醍醐寺の掃除散所が千秋万歳を行っていたことなどから、芸能との深いかかわりが古くから指摘されてきた（森末1941、山本2004）。14世紀には西九条地域の八条猪熊と堀川の間には、芸能者とされる声聞師の居住が確認できる（宇那木2004）。残念ながら東寺散所、巷所またはその後裔である西九条における芸能者の存在を具体的に伝える史料は中近世を通じて存在しない。しかし、今回指定対象となった遺物群のなかでも特異な存在である人形群は、このような西九条の地域的特質を無視しては理解できないものと考えられる（加納1991、丸川1997）。以上のことから、人形操りを行う芸能者もしくは人形の製作者が桃山時代から江戸時代前期の西九条に居住していたものと考える。また、漆箆などの工具や刷毛の存在は、東寺周辺に居住した塗師や経師の存在をうかがわせる考古資料であり、都市の縁辺に居住した西九条住民の生活を具体的に知り得る好資料といえよう。

文献目録

- 網野善彦 1984 「中世「芸能」の場とその特質」大林太良他著『日本民俗文化体系』7、191-236 頁
- 梅川光隆 1985 「京都・平安京左京九条二坊十三町」『木簡研究』3、32-35 頁
- 宇那木隆司 2004 「東寺散所」(財) 世界人権問題研究センター編『散所・声聞師・舞々の研究』思文閣出版、65-87 頁
- 大曽根章介校注 1979a 「新猿楽記（藤原明衡）」『日本思想体系』8、岩波書店、133-444 頁
- 大曽根章介校注 1979 b 「傀儡子記（大江匡房）」『日本思想体系』8、岩波書店、157-159 頁
- 小笠原恭子 1980 「中世京洛における勧進興行 - 室町期」『文学』48- 9 号、56-71 頁
- 岡田荘司 1994 「平安京中の祭礼・御旅所祭祀」同『平安時代の国家と祭祀』続群書類従完成会、440-499 頁
- 小野晃嗣 1993 「京都の近代都市化」『近世城下町の研究』法政大学出版局、268-296 頁
- 加納克巳 1991 「中世・近世初期遺跡出土の人形カシラ」『人形劇史研究』3、58-165 頁
- 加納克巳 2007 『日本操り人形史』八木書店
- 協同組合京都表装協会編 2011 『表具の事典』協同組合京都表装協会
- 坂本博司校訂 1981 「梅逕学区」林家辰三郎編『史料京都の歴史』12、平凡社、488-502 頁
- 菅田薫 1994 「平安京左京九条二坊」『平成 2 年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財) 京都市埋蔵文化財研究所、48-49 頁
- 菅田薫 1995a 「平安京左京九条二坊」『平成 3 年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財) 京都市埋蔵文化財研究所、32-34 頁
- 菅田薫 1995b 「平安京左京九条二坊 1」『平成 4 年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財) 京都市埋蔵文化財研究所、31-32 頁
- 菅田薫 1995c 「平安京左京九条二坊 2」『平成 4 年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財) 京都市埋蔵文化財研究所、33-34 頁
- 菅田薫ほか 1996 「平安京左京九条二坊」『平成 5 年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財) 京都市埋蔵文化財研究所、32-33 頁
- 鈴木久史 2017 「御土居の実像：発掘調査成果を中心に」『帝塚山大学大学院人文科学研究科紀要』17、54-39 頁
- 田中省造 1983 「運慶と阿古丸 - 仏師と傀儡の世界 - 」『皇學館論集』16- 1、37-65 頁
- 角田一郎 1963 『人形劇の成立に関する研究』旭屋書店
- 角田一郎 1968 「日本の傀儡子」『日本美術工芸』355、24-28 頁
- 永田衡吉 1969 『日本の人形芝居』錦正社
- 中村武生 1995 「京都惣曲輪「御土居」跡の推定」『佛教大學大學院紀要』23、187-216 頁
- 中村武生 1997 「豊臣期京都惣構の復元的考察 -- 「土居堀」・虎口・都市民」『日本史研究』420、3-30 頁
- 中村武生 2005 『御土居堀ものがたり』京都新聞出版センター
- 西田直二郎 1920 「御土居」『京都府史蹟勝地調査会報告』2、京都府、1-39 頁
- 林家辰三郎 1947 『日本演劇の環境』大八洲出版株式会社
- 林家辰三郎 1960 『中世藝能史の研究 - 古代からの継承と創造』岩波書店
- 松吉祐希 2016 「京都・平安京跡左京九条二坊十六町・御土居跡」『木簡研究』38、17-18 頁

- 松吉祐希ほか 2015 『平安京左京九条二坊十六町跡、御土居跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2014-9、(公財) 京都市埋蔵文化財研究所
- 京都市埋蔵文化財研究所 1986 『平安京跡発掘資料選□』(財) 京都市埋蔵文化財研究所
- 丸川義広ほか 1987 「平安京左京九条二坊」『昭和 59 年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財) 京都市埋蔵文化財研究所、22-25 頁
- 丸川義広 1997 「御土居跡の発掘調査とその成果」『日本史研究』420、31-53 頁
- 丸川義広 2001 「コラム　御土居の発掘調査」日本史研究会編『豊臣秀吉と京都』文理閣、113-119 頁
- 丸川義広 2016 「京都のキリシタン遺跡」神田宏大ほか編『戦国キリシタンの世界』批評社、258-272 頁
- 水戸政満校訂 1992 「西九条村」林家辰三郎編『史料京都の歴史』13、平凡社、167-206 頁
- 森末義彰 1941 「散所」『中世の社寺と藝術』畝傍書房、222-302 頁
- 柳谷武夫訳 1978　ルイス・フロイス『日本史』5、東洋文庫 330、平凡社
- 山口建治 2008 「方相・傀儡・郭禿・鍾馗 -「天翻」もう一つの身体技法 - 」『非文字資料から人類文化へ - 研究参画者論文集』27-37 頁
- 山路興造 1987 「被差別民芸能の変遷」『芸能史研究』98、1-22 頁
- 山路興造ほか編 1991 『形代・傀儡・人形』平凡社
- 山路興造 2000 「萬歳の成立」村山修一ほか編『陰陽道叢書』3 近世、名著出版、169-301 頁
- 山本尚友 1998 「中世末・近世初頭の洛南における賤民集落の地理的研究（下）」『研究紀要』3、世界人権問題研究センター、131-194 頁
- 山本尚友 2000 「民間陰陽師の発生とその展開」村山修一ほか編『陰陽道叢書』3 近世、名著出版、163-210 頁
- 吉村享ほか校訂 1992 「散在荘園」林家辰三郎編『史料京都の歴史』13、平凡社、236-278 頁

図　版

001
002
003
004
005
006
007
008
009
010
011
012
013
014
015
016
017
018
019
020

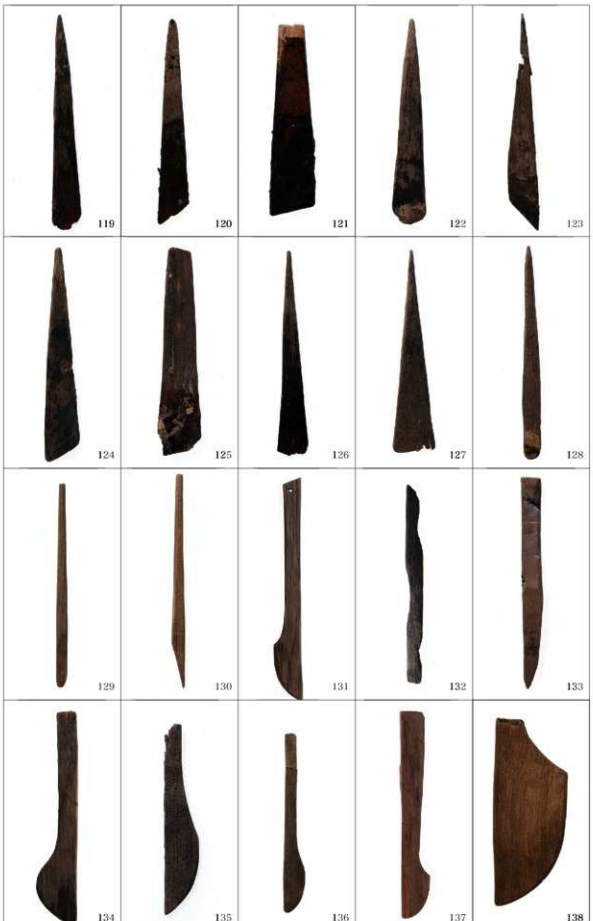
021
022
023
024
025
026
027
028
029
030
031
032
033
034
035
036
037
039
038
040

041
042
043
044
045
046
047
048
049
050
051
052
053
054
055
056
057
058
059
060

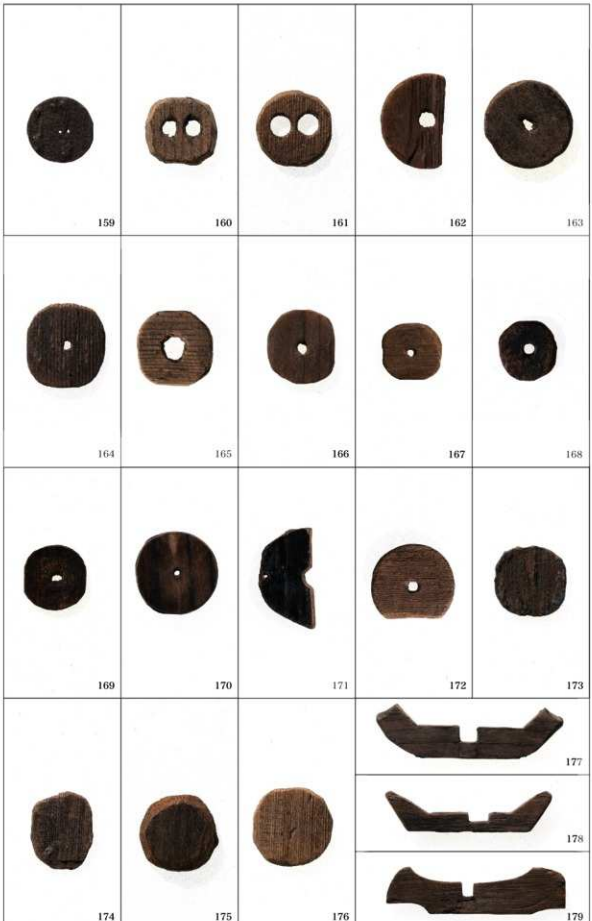
061
062
063
064
065
066
067
068
069
070
071
072
073
074
075
076
077
078
079
080

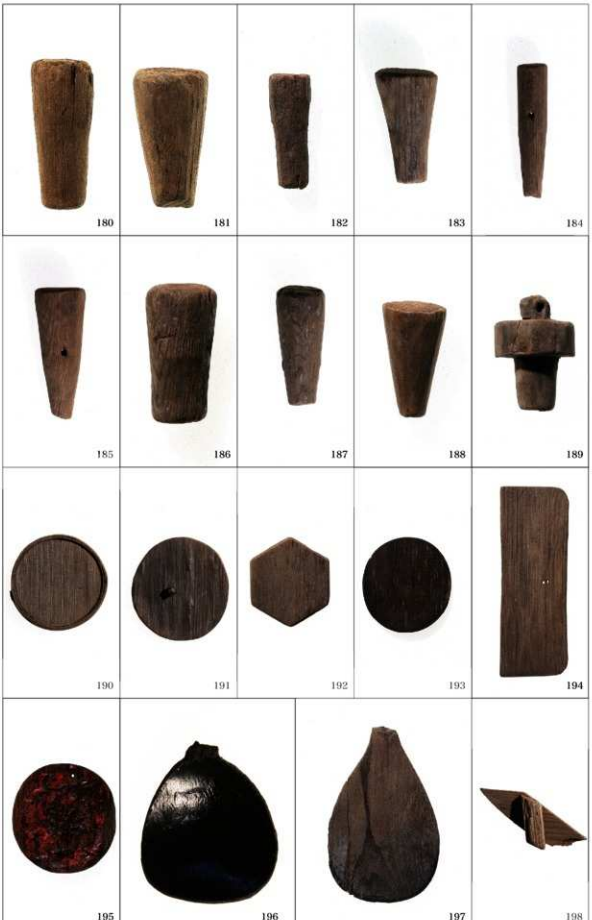
081
082
083
084
085
086
087
088
089
090
091
092
093
094
095
096
097
098
099
100

101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118


119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138

139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158


159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179


180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198

199
201
200
202
203
204
205
209
206
207
208
210
212
211
213
214
215
216
217
218

219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
238

239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258

259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278

279
280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294
295
296
297
298

299
300
301
302
303
304
305
306
307
308
309
310
311
312
313
314
315
316
317
318
319

320

321

322

323

324

325

326

327

328

329

330

331

332

333

334

335

336

337

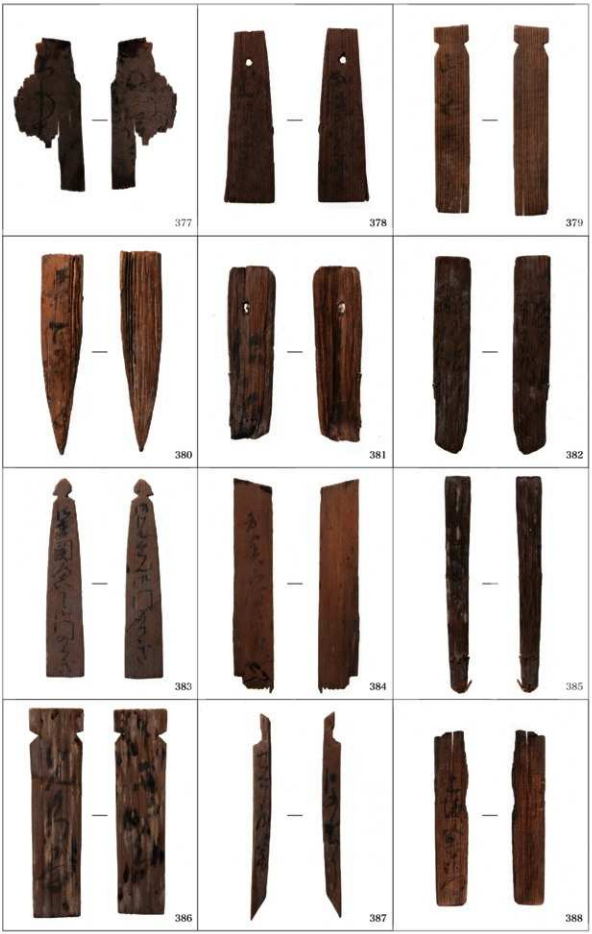
338

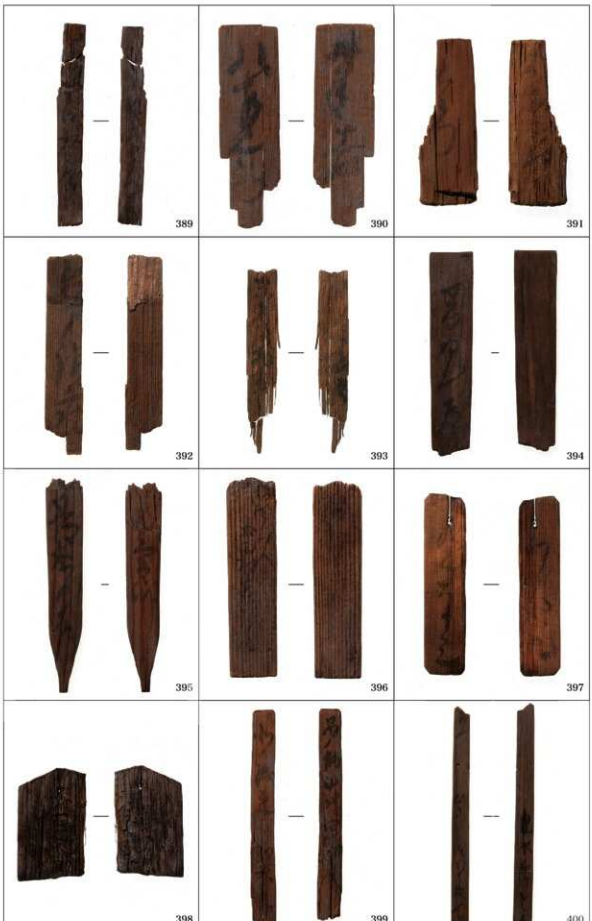
339

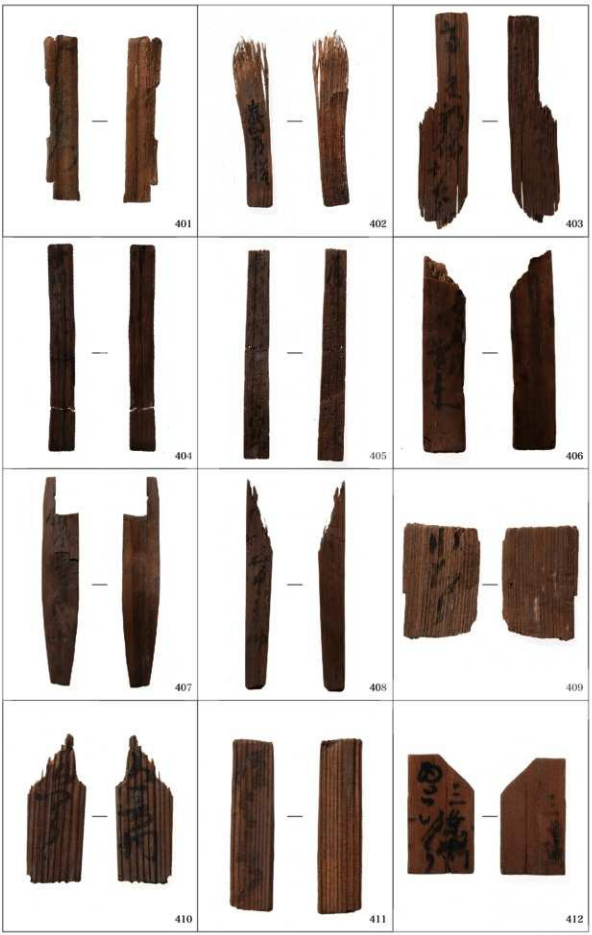
340

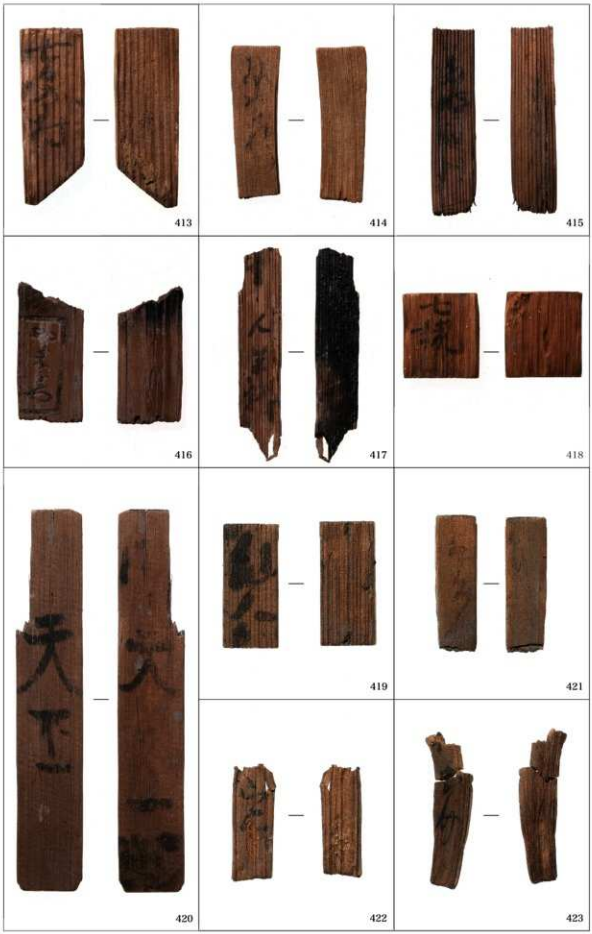
341
342
343
344
345
346
347
348
349
350
351
352
353
354
355
356
357
358
359
360
361

362
363
364
365
366
367
368
369
370
371
372
373
374
375
376


377
378
379
380
381
382
383
384
385
386
387
388


389
390
391
392
393
394
395
396
397
398
399
400


401
402
403
404
405
406
407
408
409
410
411
412


413
414
415
416
417
418
419
420
421
422
423

424
426
425
427
428
429
430
431
432
433
434

435

436

437

438

439

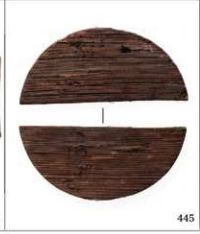
440

441

442

443

444

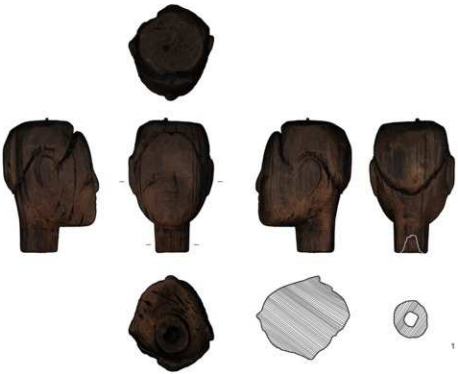

445

446

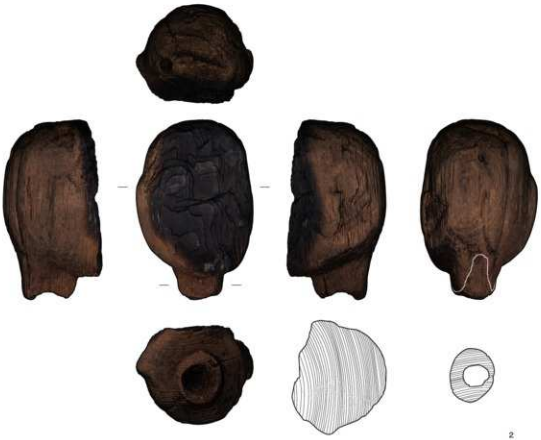
447
448
449
450
451
452
453
銀將
454
455
456
457
金將
458

459
460
461
462
463
464
465

466
467
468
469
470
471
472
473
474
475
476

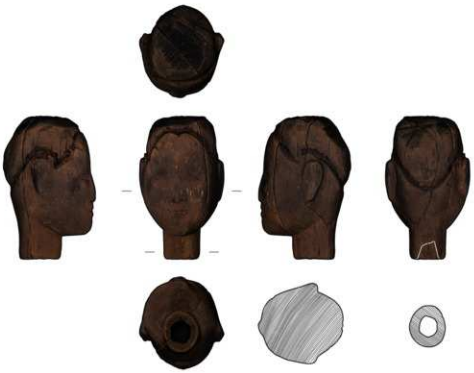


1

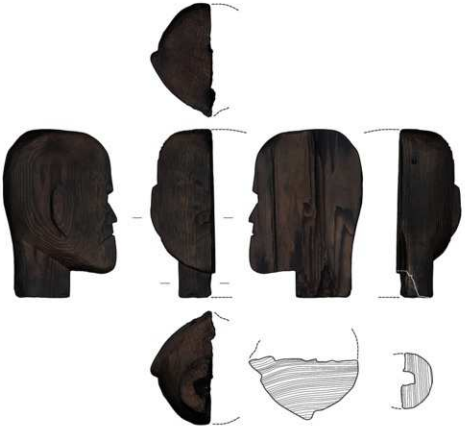


2

0 10cm

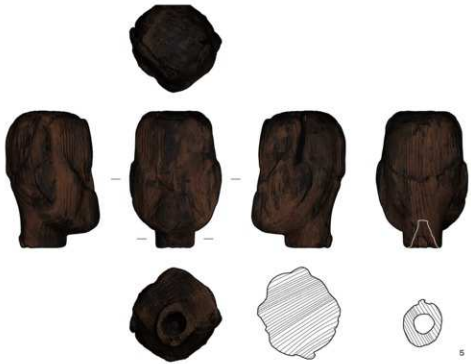


3

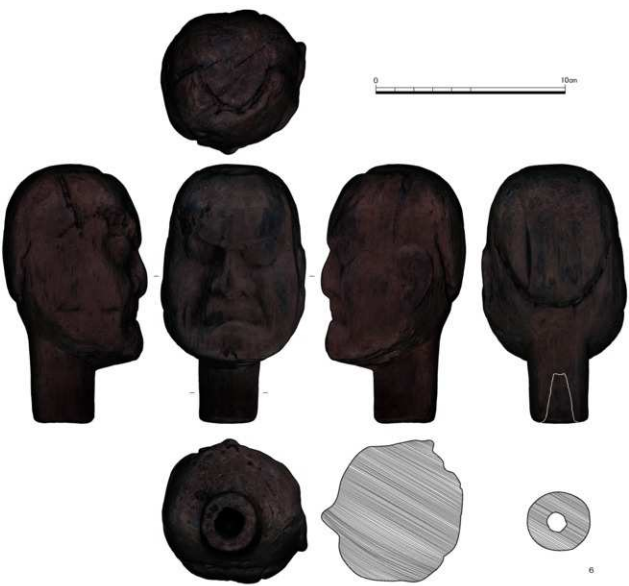


4

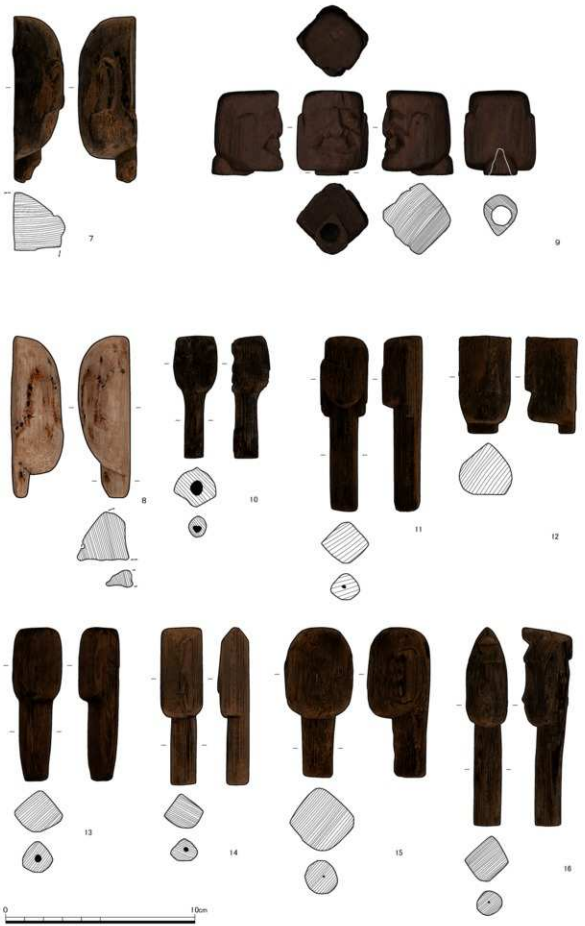
0 10cm

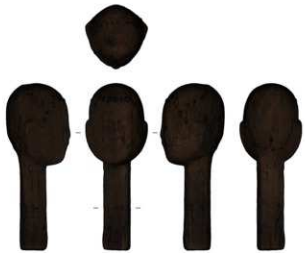


5

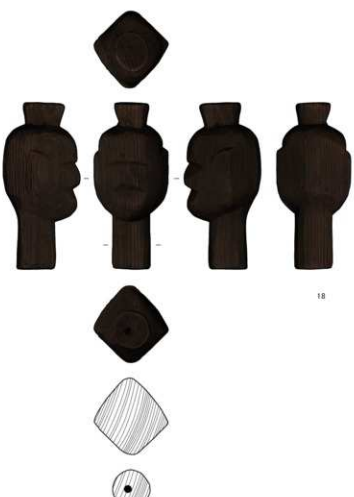


6


7
9
8
10
11
12
13
14
15
16
0
10cm



17



18

19

20

21

22

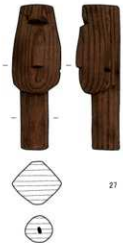
0 10cm

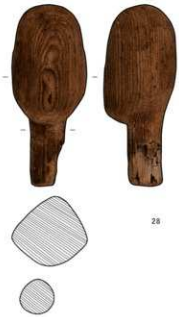
23

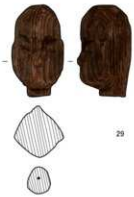
24

25

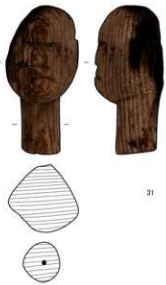
26


27


28


29

30


31

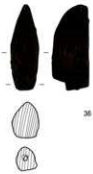
0
10cm

32

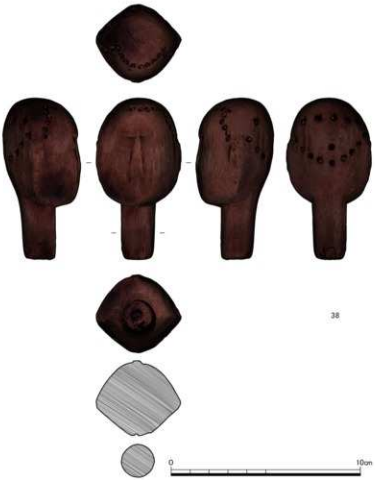
33

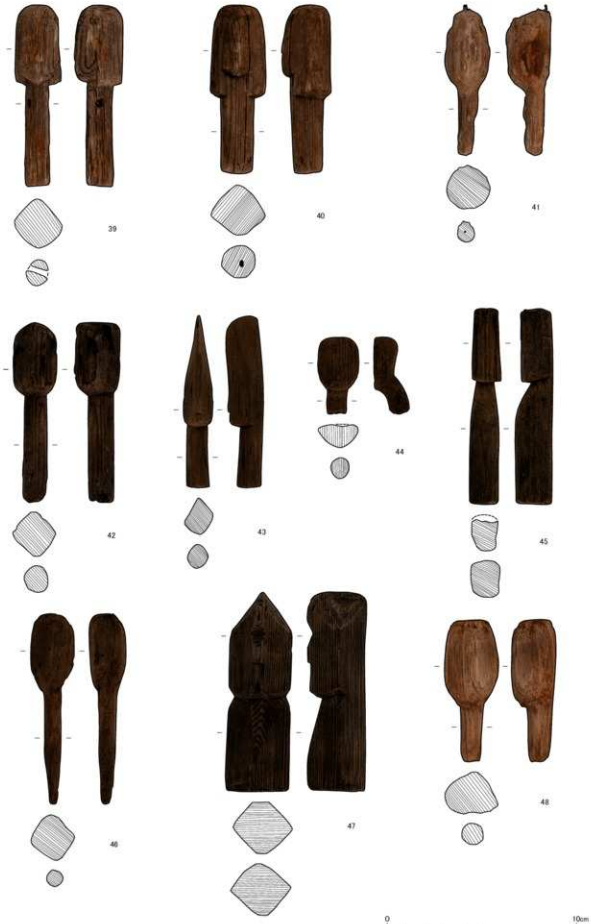
34

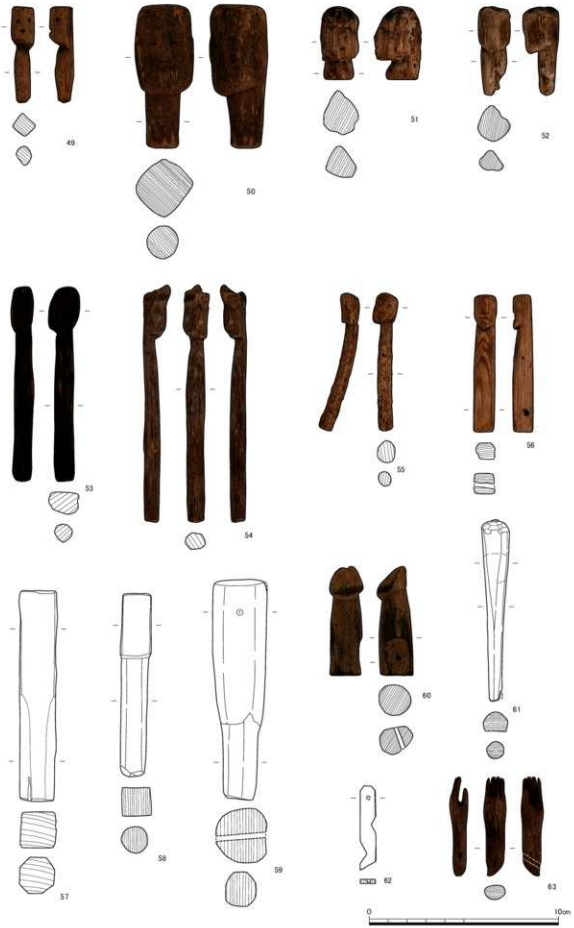
35

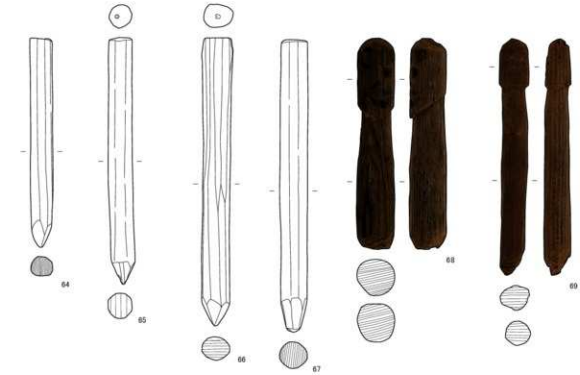

36

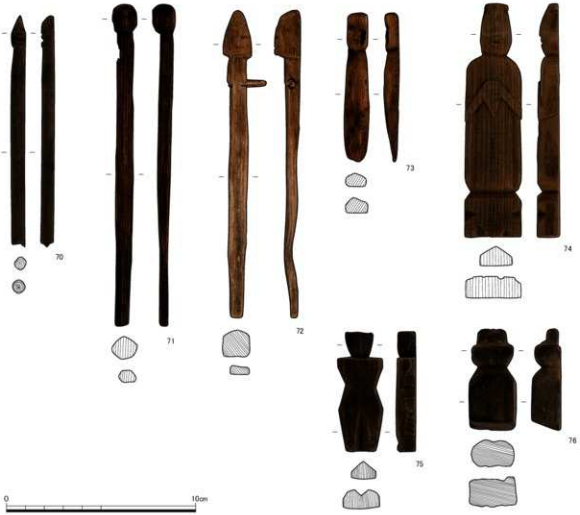
37

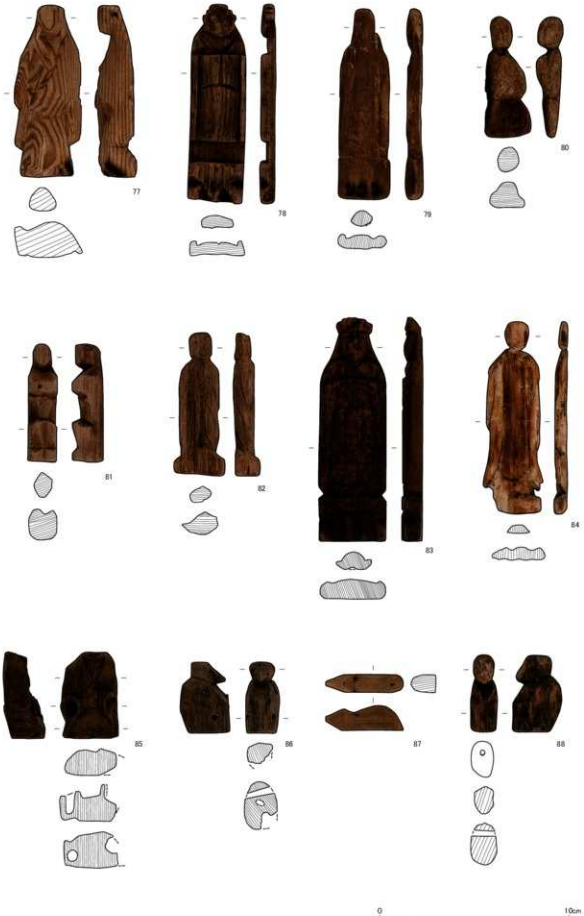

38
0
10cm

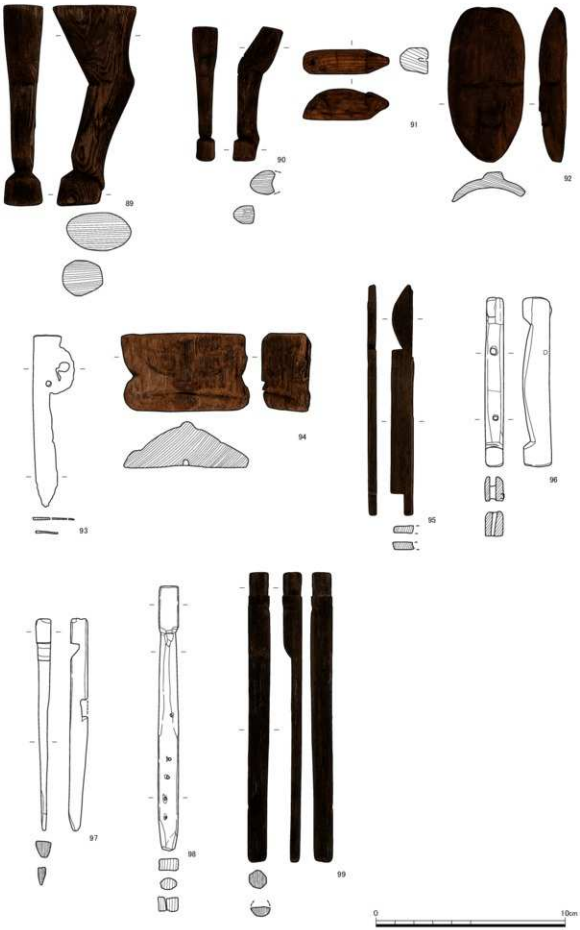

39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
0
10cm

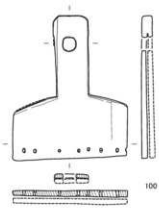

49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
0
10cm

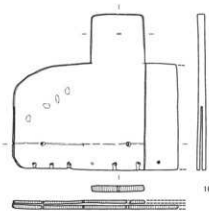

64
65
66
67
68
69

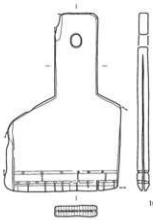

70
71
72
73
74
75
76
0
10cm

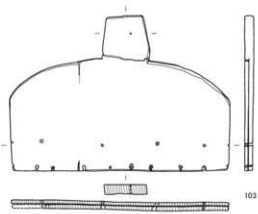

77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
0
10cm


89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
0
10cm


100


101


102


103

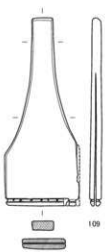
104

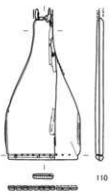
105

106

107

108


109

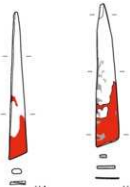

110

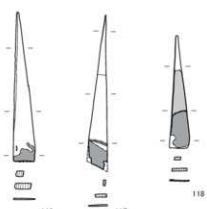
0
15cm

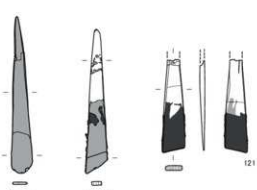
111

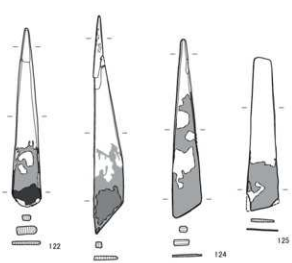
112

113

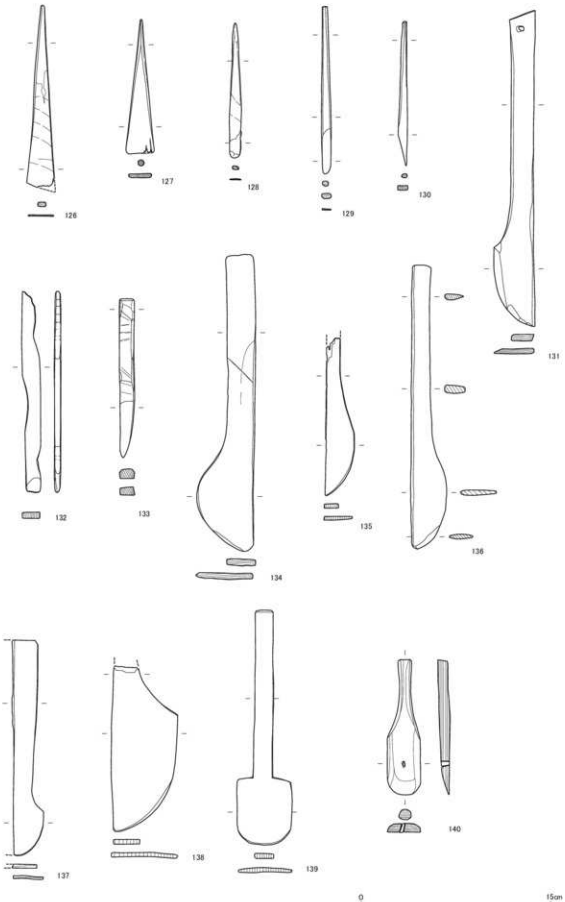

114
115

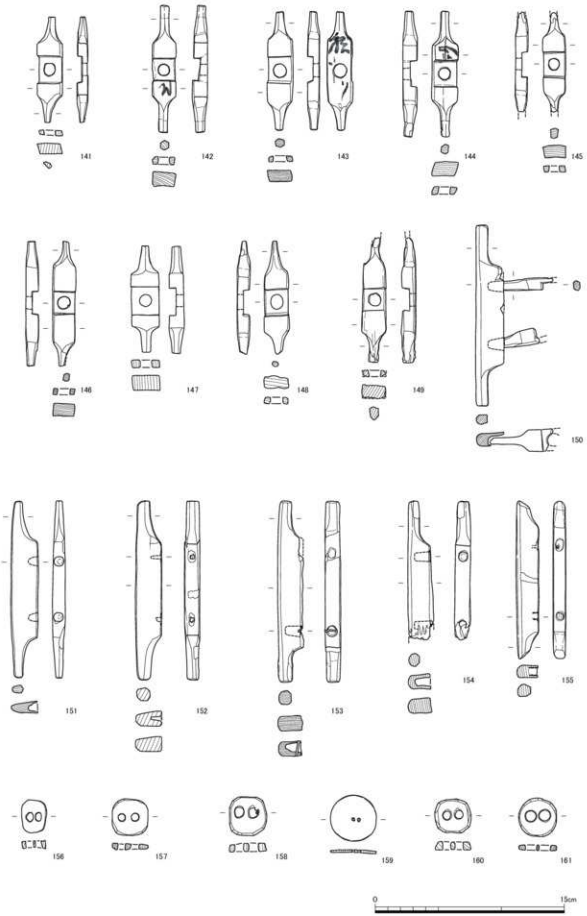

116
117
118

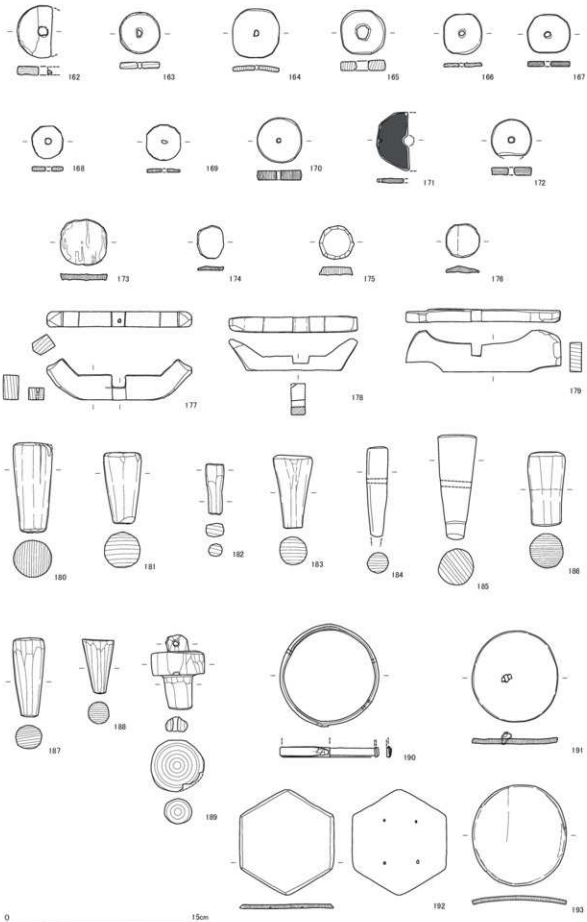

119
120
121

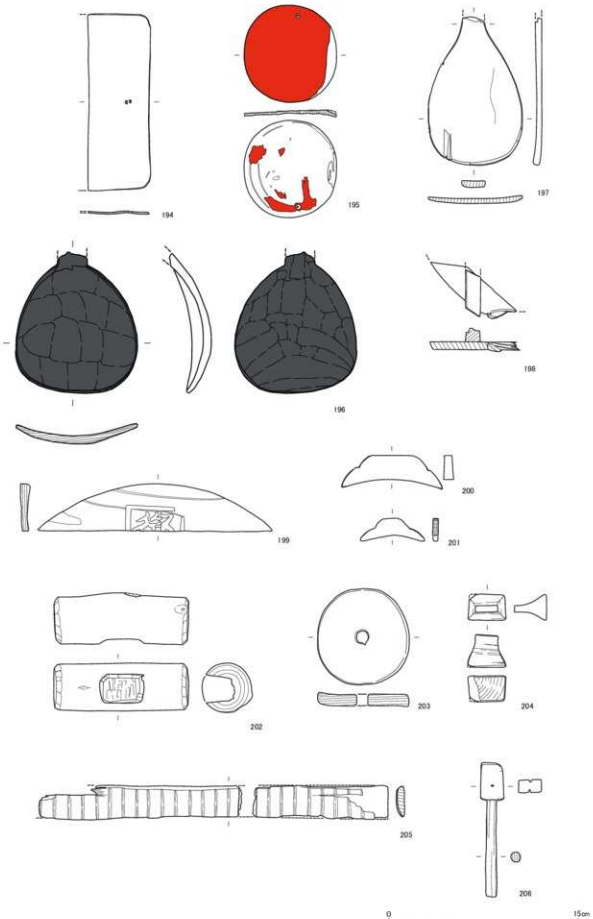

122
123
124
125

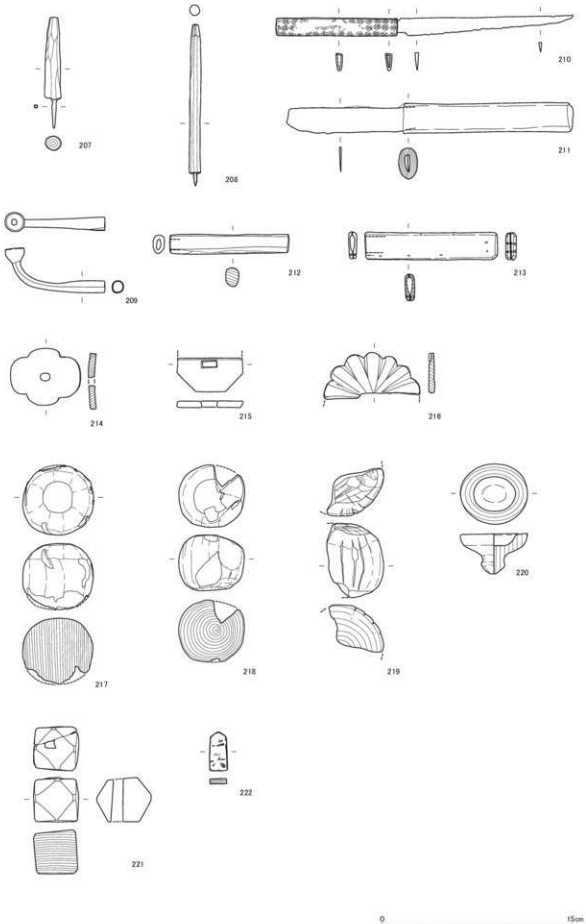
0
15cm

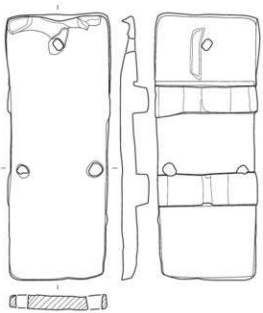

126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
0
15cm


141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
0
15cm

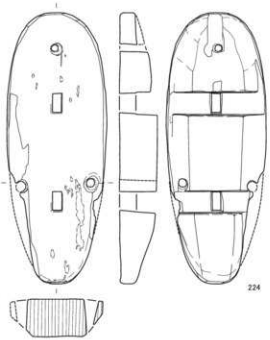

162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
0
15cm


194
195
197
196
198
199
200
201
202
203
204
205
206
0
15cm

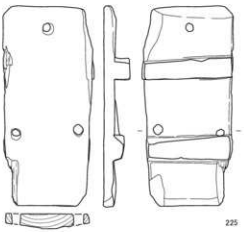

207
208
210
211
209
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
0
15cm



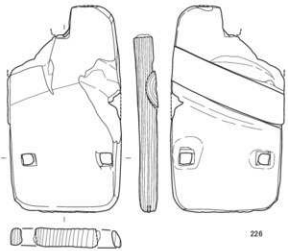
223



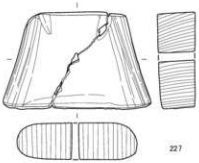
224



225



226



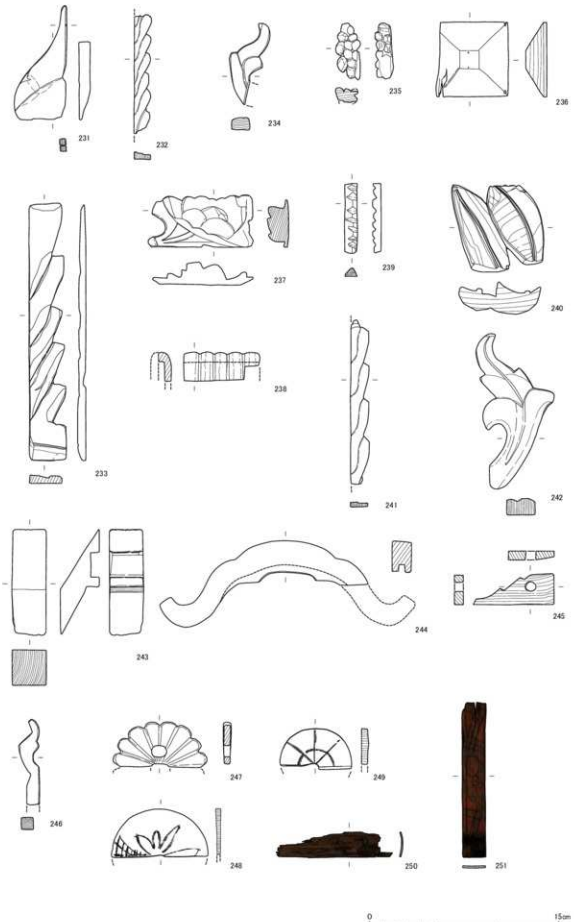
227

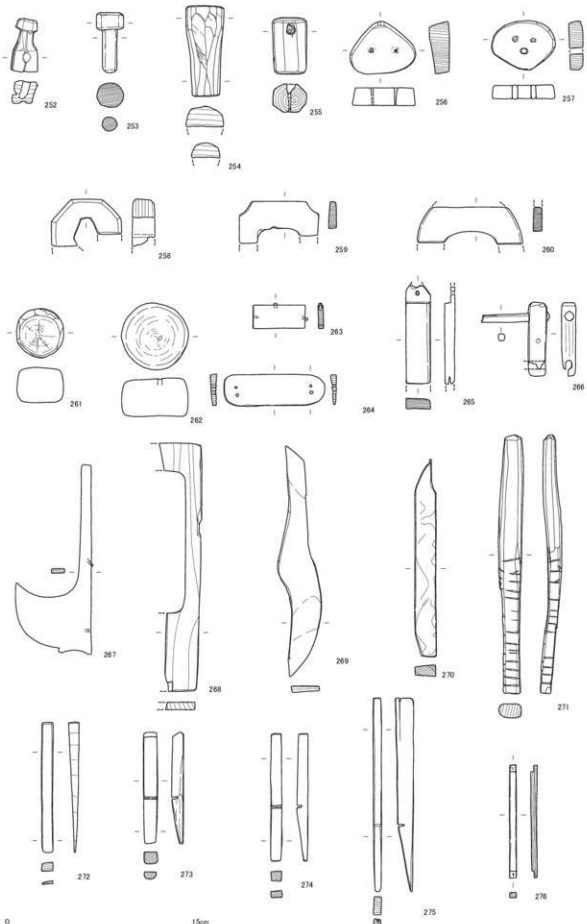
228

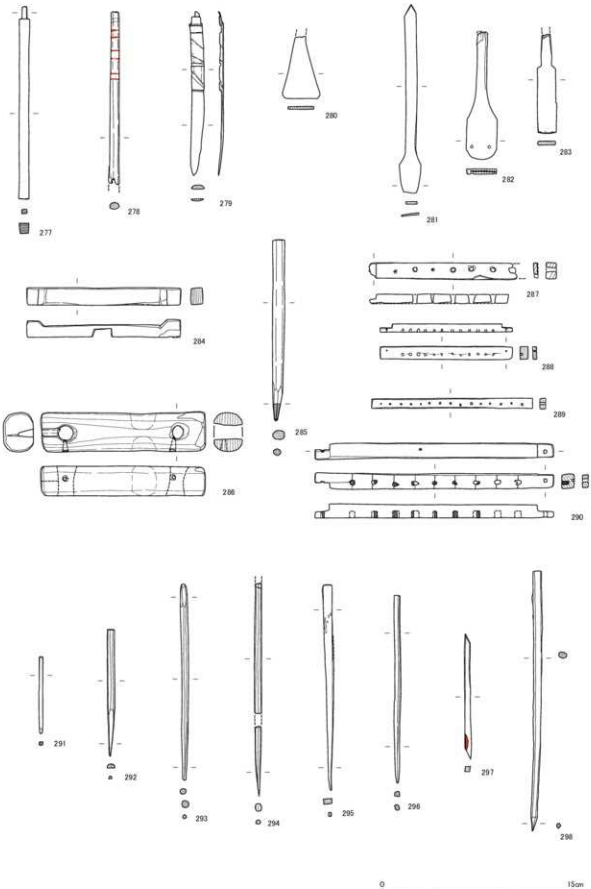
229

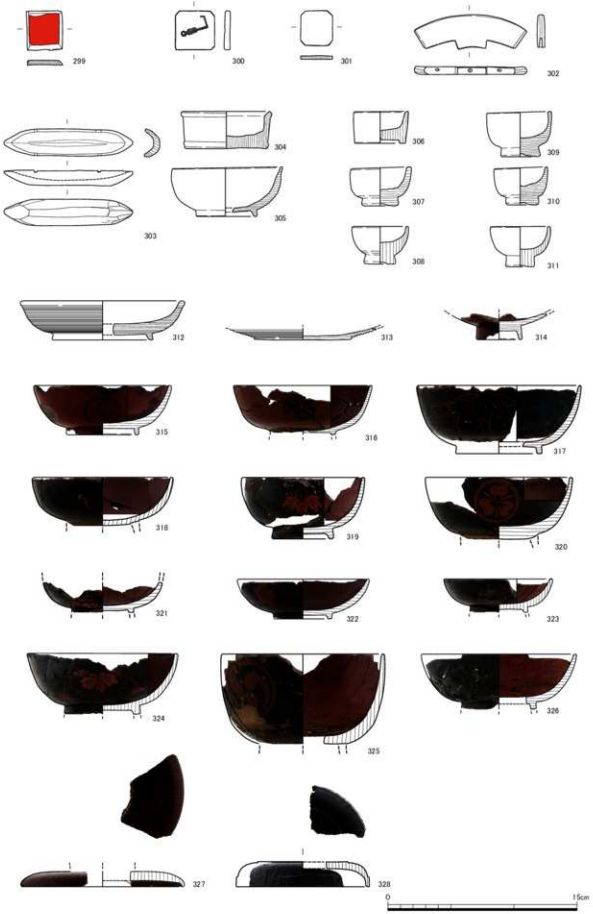
230

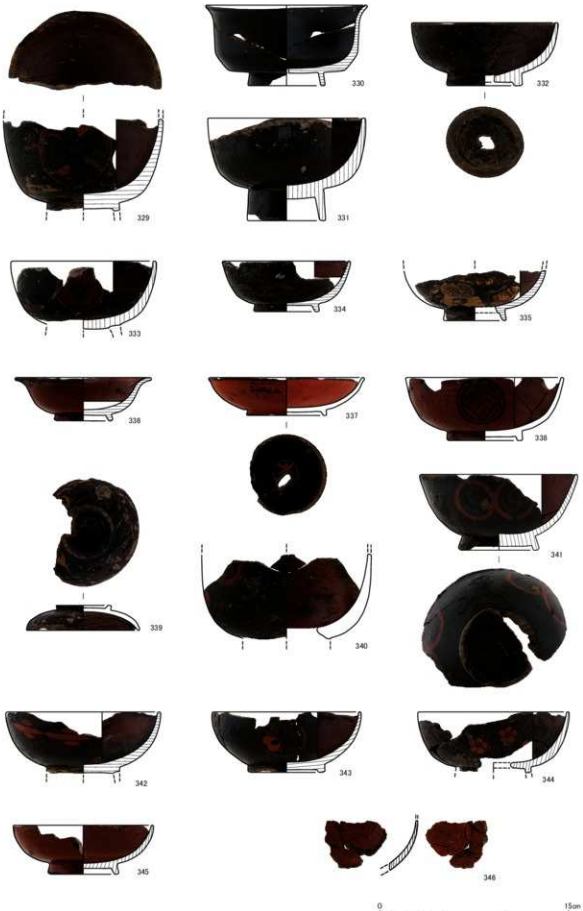
0 15cm

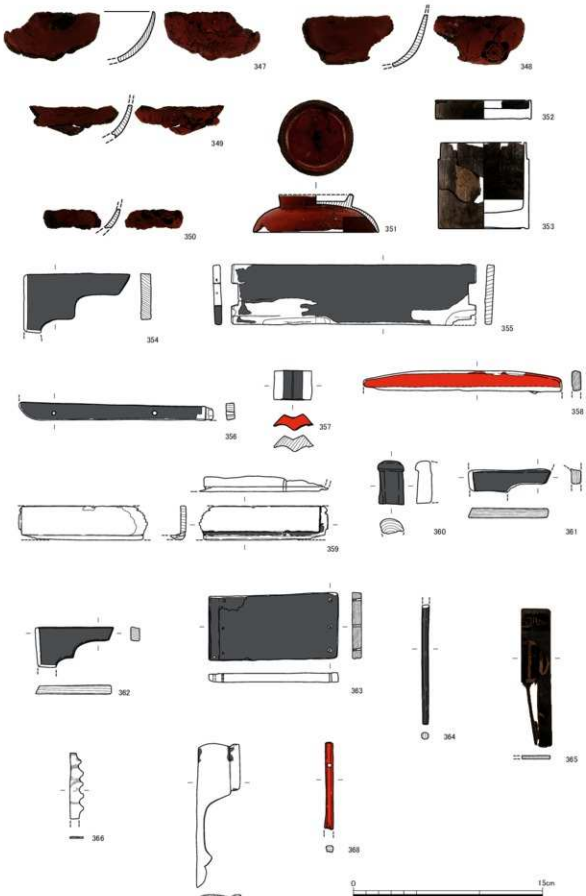

231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
0
15cm

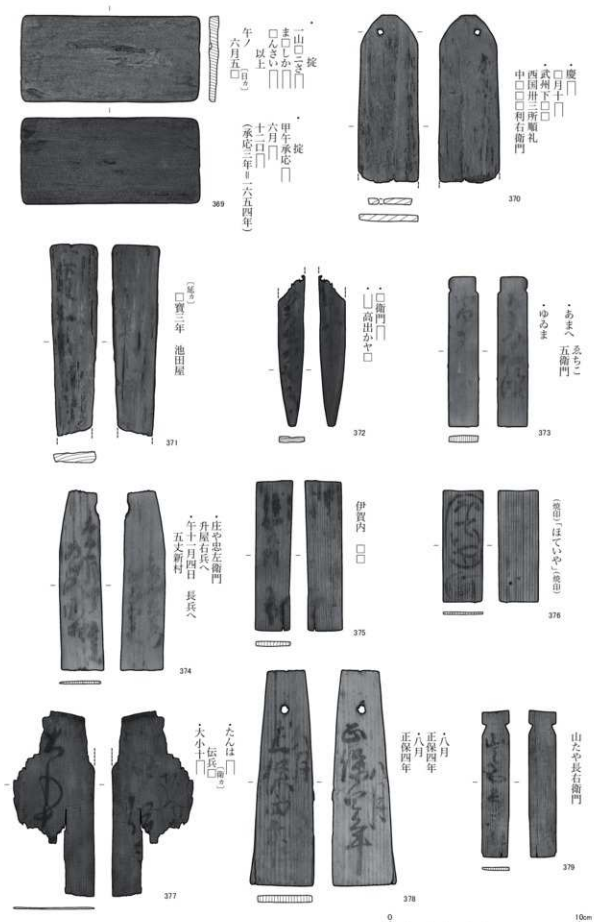

252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
0
15cm

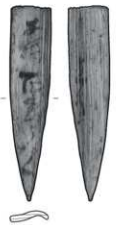

277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
0
15cm


299
300
301
302
303
304
305
306
307
308
309
310
311
312
313
314
315
316
317
318
319
320
321
322
323
324
325
326
327
328
0
15cm


330
332
329
331
333
334
335
336
337
338
339
340
341
342
343
344
345
346
0
15cm


347
348
349
350
351
352
353
354
355
356
357
358
359
360
361
362
363
364
365
366
367
368
0
15cm


・山□二文□　掟
ま□しか□□
□んさい□□□
以上
午ノ
六月五□（目カ）
・甲午承応□　掟
六月□日□
十二日□
（承応三年＝一六五四年）
369
・慶□□
□月十□□
・武州上□
西国用三所順礼
中□□□利右衛門
370
（冠カ）
□寶三年　池田屋
371
・□衛門□
・□高出かヤ□
372
・あまへ　ゑちこ
五衛門
・ゆゐま
373
・庄や忠左衛門
升屋右兵へ
・午十一月四日　長兵へ
五丈新村
374
伊賀内　□□
375
（疱瘡）「ほていや」（疱瘡）
376
・たんは□
・大小十□（伝兵□衛カ）
377
八月
正保四年
八月
正保四年
378
山たや長右衛門
379
0　10cm



380

・□右衛門
・あ□百れうく

381

・はう所
・仁斎

382

・西世木村十月五日
・四斗入　長右衛門
舛取　久三郎

383

・御けんくわん御門のかぎ
・御玄関へいと御門のかぎ

384

弐十貫五合六十結

385

ふじはかま

386

・わか
いち
・けんもつさま

387

・にのちう
・せんてう屋敷

388

上坂五右衛門

0　10cm

389

・青江九郎衛門
・稲吉小三郎

390

・幸善
・八郎右衛門

391

・はやミ村
・□衛門

392

江戸銀座

393

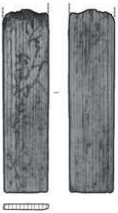
・
・□木□村　□□□
義□

394

せうゐん　道□

395

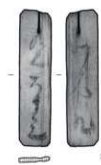
・□三郎
・義右衛門殿



396

・□四十人
土田村善左衛門

・□□□□□□□□□□
（納カ）



397

・つかや　九
・九尺　ろ十三

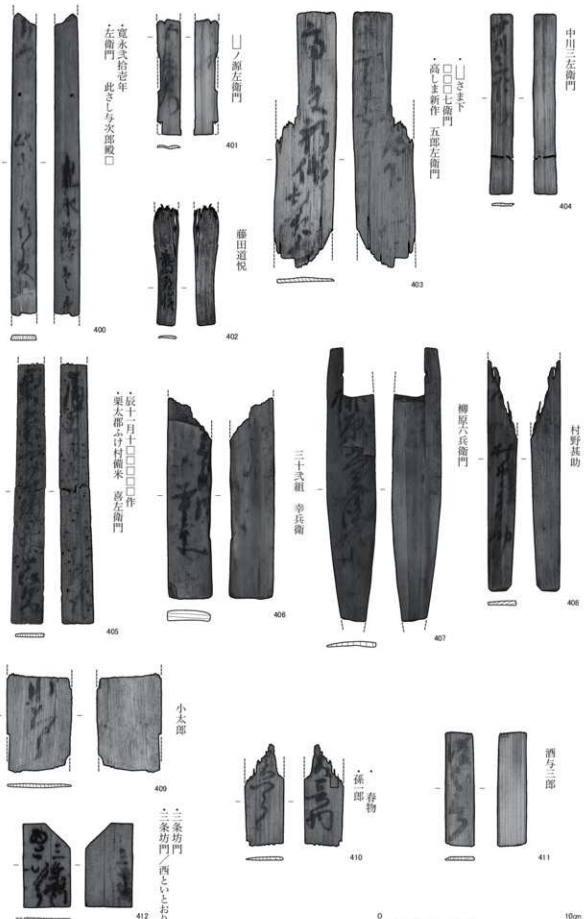
398

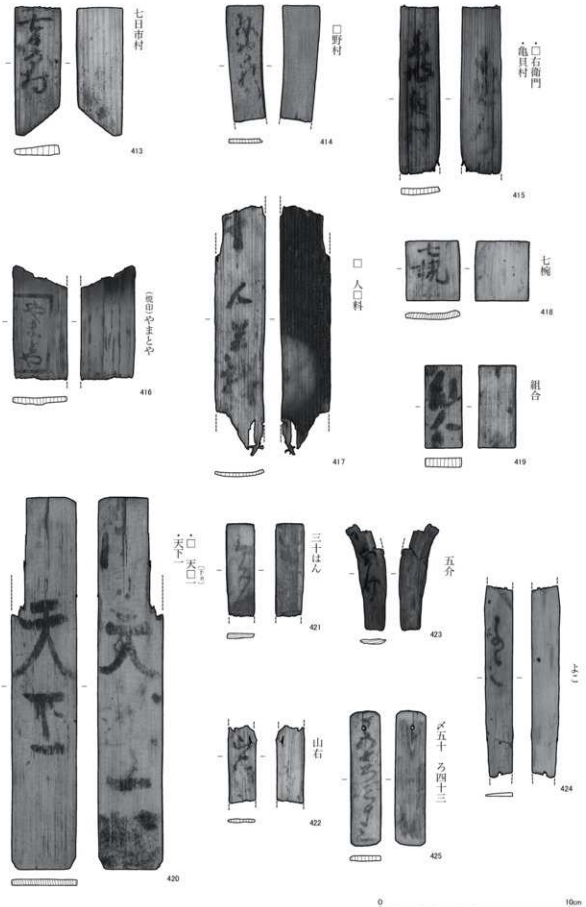
・慶印吉
・慶印吉

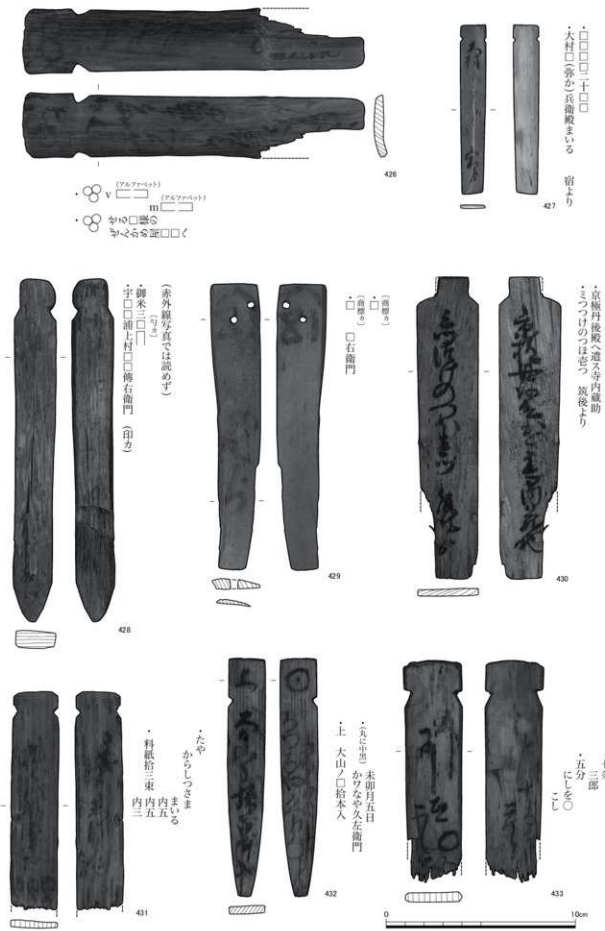
399

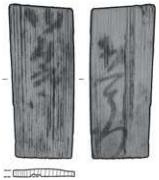
・酉ノ餅　斗舛四歪人
・北ノ残米　勘米分

0　10cm


・寛永弐拾壱年
左衛門　此さし与次郎殿□
400
□ノ源左衛門
401
藤田道悦
402
・□さまド
□□□七衛門
・高しま新作　五郎左衛門
403
中川三左衛門
404
・辰十一月十□□□□□作
・栗太郡ふけ村藺米　喜左衛門
405
三十弐組　幸兵衛
406
柳原六兵衛門
407
村野甚助
408
小太郎
409
・三条坊門
・三条坊門／西といとおり
412
・孫一郎
・春物
410
酒与三郎
411
0
10cm

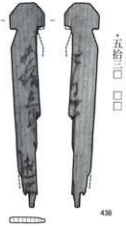

七日市村
413
□野村
414
□右衛門
亀貝村
415
七槻
418
□人□料
417
[紙田]やまとや
416
組合
419
・□
・天下一
[ヒカ]
天下
420
三十はん
421
山石
422
五介
423
ゑ五十　ろ四十三
425
よこ
424
0
10cm


・□□□□一十□□
・大村□（弥か）兵衛殿まいる　宿より
426
427
・京極丹後殿へ遣す寺内蔵助
・ミつけのつほ志つ　筑後より
430
・□（商標か）
（商標か）
・□　□左衛門
429
（赤外線写真では読めず）
・御米三□□
（与ヵ）
・宇□□浦上村□□佛右衛門　（印カ）
428
・七条
・五分　三郎
にしを〇
こし
433
・（丸に中黒）　未御月五日
かワなや久左衛門
・上　大山ノ□拾本入
432
・たや
からしつさま
まいる
・料紙拾三束　内五
内三
431
0
10cm



・豊右衛門
・弐斗六□

434



・七月二日
・五拾二□　□□

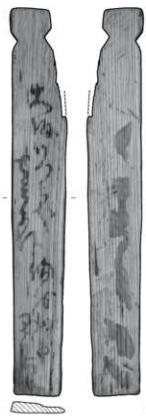
436

四荷分の□□
四荷分のトリ

437

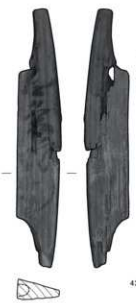
・閏九月十日□
□□□□
・十月廿二日二取申候　作左衛門ニ久七
真鴨弐つ□日二塩二仕候□□

435



・□すしこ
・大坂　いつちや　備前州町
七兵衛様　り右衛門

438



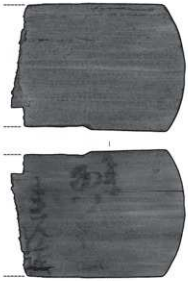
四条坊門

439

上之
下地
せしめ
□□出
弐拾匁

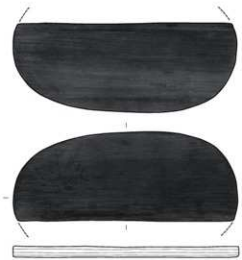
440

0　10cm



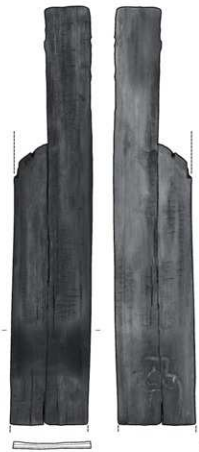
□年
なつとう
れんゾ□□と

441



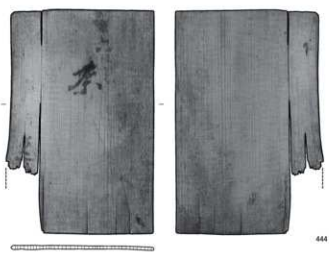
天正十
年
三月
□□
弥三

442



「後田」「命惜に今」

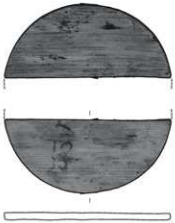
443



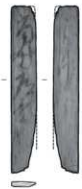
六日之茶

444

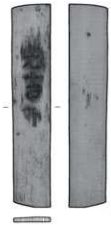
0 10cm



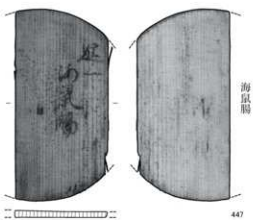
445



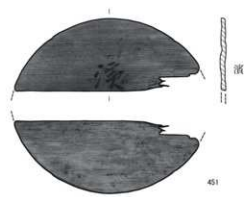
446



448

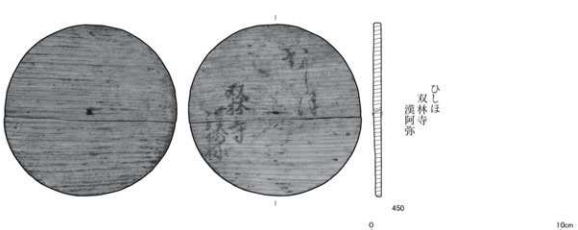


447



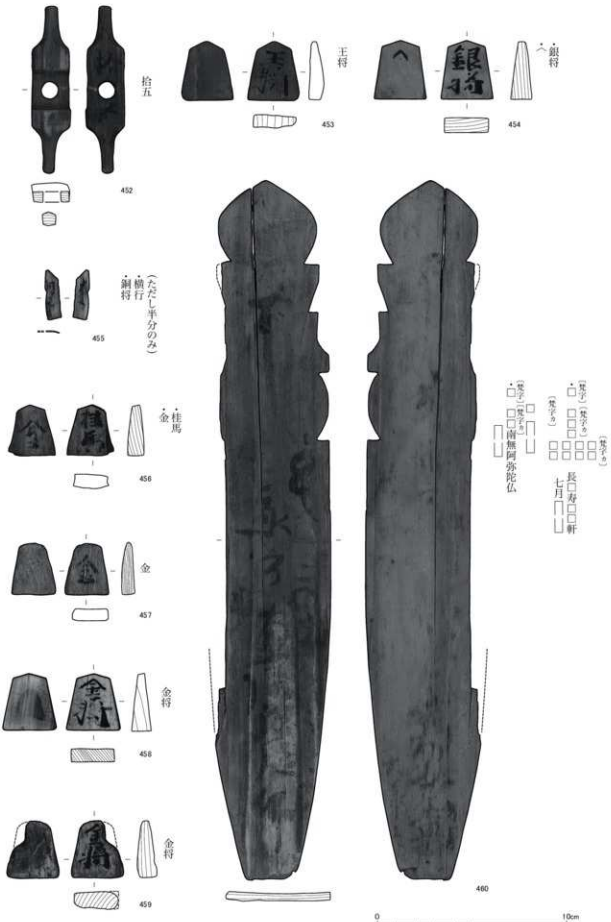
451

449

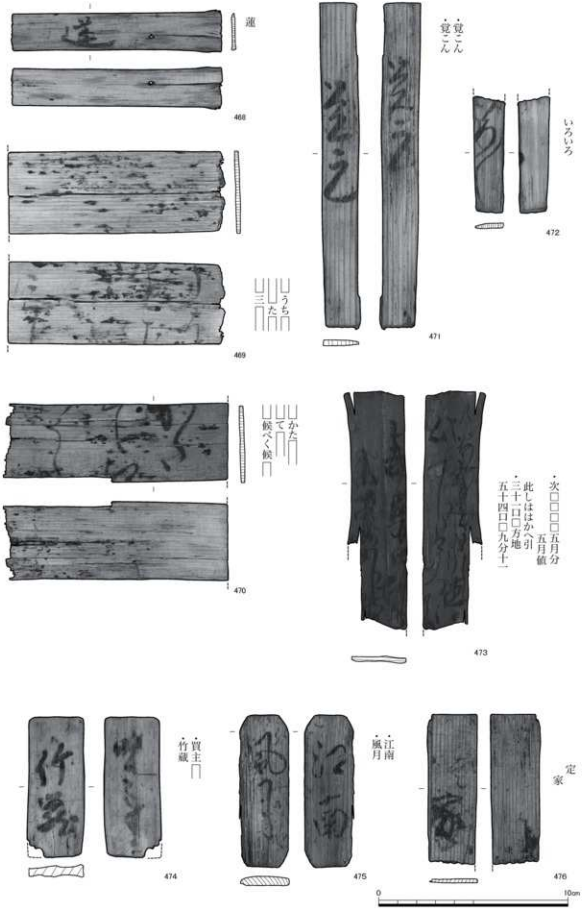


450

0 10cm


拾五
452
王将
453
銀将
454
（ただし平分のみ）
・植行
・銅将
455
・桂馬
・金
456
金
457
金将
458
金将
459
460
（梵字）
（梵字）
（梵字）
（梵字）
（梵字）
（梵字）
（梵字）
（梵字）
南無阿弥陀仏
長□寿□軒
七月□□
0
10cm

・庄左衛門
・せうさ□ん
464
三
465
打作叫声目蓮非宮問（血盆経 断簡）
462
梵字月宗安神定
461
・仁 伊勢太神宮
・五大力 平岩渕宇野長三郎
463
□ 御見□
467
・□□□
・辛年
466
0
10cm


蓮
468
469
うち
た
三
470
かた
て
候べく候
・覚こん
・覚こん
471
いろいろ
472
・次□□□□五月分
五月値
此しはかへ引
・三十□□方地
五十四□九分十一
473
・寅主□
竹蔵
474
・江南
風月
475
定
家
476
0
10cm

一 覧 表

人形類一覧表1

掲載No.	年次	資料名	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	頭部穴有無	頭部穴部位と様式	備考	指定No.
1	調査2	1a類	7.1	4.5	5.1	有	楔式が生え際全体；頭頂部が木釘式	若年女性、加納分類②（加納2007、以下同じ）	69
2	調査2	1a類	9.5	6.2	5.0	有	木釘式；後頭部	加納分類⑦、顔面消失（魂抜きか）	70
3	調査2	1a類	7.6	4.5	4.5	有	楔式；生え際全体	壮年女性、頸部に鋸跡、修復の痕跡あり（鬱使用か？）、加納分類③	71
4	調査2	1a類	8.9	3.4	5.8	有	小穴（木釘残存せず）；後頭部	加納分類⑥	72
5	調査2	1a類	7.2	4.9	4.4	有	楔式；生え際全体	加納分類④	73
6	調査2	1a類	13.7	7.7	7.5	有	楔式；生え際全体	加納分類⑧	76
7	調査2	1a類	8.8	(3.1)	(2.7)	有	木釘式；額；側頭部	加納分類⑤	87
8	調査3	1a類	8.6	(2.7)	(2.5)	有	木釘式；額；こめかみ	操り1a人形頭部片	100
9	調査3	1a類	4.5	3.8	3.6	無	-	頸部に鋸跡、薄い細工鋸	77
10	調査2	1b類	6.4	2.2	2.1	有	径6mmの穿孔；頭頂部	穿孔は冠などの飾り用？	84
11	調査2	1b類	9.2	2.5	2.2	無	-	甲形頭部	85
12	調査2	1b類	5.1	2.8	2.7	無	-	首底部切断痕あり	86
13	調査2	1b類	8.1	2.6	2.2	有	小穴（木釘残存せず）；頭頂部		96
14	調査2	1b類	8.3	2.2	1.8	無	-		117
15	調査2	1b類	7.8	3.6	3.3	有	木釘式；後頭部		81
16	調査2	1b類	10.3	2.3	2.4	無	-	烏帽子形（侍）	111
17	調査2	1b類	8.8	3.3	3.3	有	木釘式；生え際全体；後頭部	加納分類①	74
18	調査2	1b類	8.8	3.9	4.1	有	木釘式；頭頂部の凸部両側	頭頂部に冠か？	75
19	調査2	1b類	5.1	3.0	2.4	無	-	頭巾をかぶっている姿を表現	90
20	調査2	1b類	7.6	1.4	1.0	-	-	溺れた頭部	120
21	調査3	1b類	5.4	1.9	1.9	無	-		94
22	調査3	1b類	6.9	3.5	3.1	有	木釘式；額；後頭部		95
23	調査3	1b類	9.2	2.5	2.3	無	-	立烏帽子形	92
24	調査3	1b類	7.3	2.9	2.0	有	後頭部		97
25	調査3	1b類	8.4	3.5	2.9	有	小穴；後頭部		98
26	調査3	1b類	5.1	2.3	2.6	無	-		99
27	調査3	1b類	7.7	2.6	2.3	無	-	古式	101
28	調査3	1b類	9.4	4.0	3.7	有	小穴（木釘残存せず）；後頭部		106
29	調査3	1b類	5.0	2.6	2.7	有	木釘式；後頭部	頸部を再切断か？	105
30	調査3	1b類	7.7	2.4	2.3	無	-		113
31	調査3	1b類	7.8	3.7	3.6	無	-		107
32	調査3	1b類	7.9	2.9	2.8	有	小穴（木釘残存せず）；後頭部		108
33	調査3	1b類	6.8	2.8	2.5	無	-		79
34	調査3	1b類	11.7	2.1	2.3	無	-	立烏帽子形	114
35	調査3	1b類	8.8	3.0	2.2	無	-		82
36	調査4	1b類	4.5	1.4	1.9	-	-	立烏帽子形	104
37	調査4	1b類	7.2	3.5	3.3	有	小穴（木釘残存せず）；後頭部		80
38	調査4	1b類	8.6	4.5	4.0	有	木釘式；生え際全体；後頭部		78
39	調査4	1b類	9.7	2.5	2.6	無	-	甲形頭部、首に横穴あり	115

人形類一覧表２

掲載No.	年次	資料名	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	頭部穴有無	頭部穴部位と様式	備考	指定No.
40	調査４	1b 類	8.9	3.0	2.6	無	-	甲形頭部	88
41	調査４	1b 類	8.0	2.4	2.3	有	小穴（木釘残存せず）；後頭部	頭頂部に金属片	110
42	調査２	1c 類	9.5	2.3	2.3	無	-		109
43	調査２	1c 類	9.0	1.5	1.9	-	-	立烏帽子、串穴なし	91
44	調査２	1c 類	4.3	2.2	1.1	-	-	古式、頭部が傾斜	103
45	調査２	1c 類	10.3	1.7	1.9	無	-		116
46	調査２	1c 類	10.0	2.3	2.4	無	-	首底尖る	112
47	調査２	1c 類	10.5	3.3	3.1	-	-	毛引き痕（宮大工関与か？）、折烏帽子形	83
48	調査３	1c 類	7.5	2.8	2.2	有	木釘式；額		102
49	調査３	1c 類	5.1	1.2	1.2	無	-		64
50	調査３	1c 類	7.5	3.0	3.0	無	-		93
51	調査３	1c 類	3.8	1.8	2.3	無	-		89
52	調査３	1c 類	4.7	1.7	1.9	無	-	頭頂部炭化	62
53	調査４	1c 類	10.3	1.7	1.2	-	-		66
54	調査４	1c 類	12.6	1.5	0.9	-	-		65
55	調査４	1c 類	7.3	0.9	1.2	無	-		67
56	調査４	1c 類	7.2	1.2	1.1	-	-	側面可動式	68
57	調査２	1d 類	11.2	2.1	1.9	-	-		121
58	調査２	1d 類	9.7	1.7	1.5	-	-		119
59	調査２	2 類	11.7	2.8	2.9	-	-	足	118
60	調査２	2 類	5.7	1.8	1.8	-	-	隔物	134
61	調査２	2 類	9.6	1.5	1.1	-	-	動物の手足の可能性	448
62	調査２	2 類	4.5	0.9	0.2	-	-	クロガキ？、側面可動式の足	126
63	調査３	2 類	5.4	1.3	1.0	-	-	鋭利な刃物使用	125
64	調査２	3 類	11.1	1.2	1.1	-	-		449
65	調査２	3 類	13.0	1.4	1.3	-	-		450
66	調査２	3 類	15.2	1.7	1.3	-	-		451
67	調査２	3 類	15.5	1.5	1.4	-	-		452
68	調査２	4 類	11.1	2.0	1.9	-	-	顔の細部を「て」の字状で表現	56
69	調査２	4 類	12.5	1.6	1.3	-	-		57
70	調査２	4 類	12.3	0.8	0.7	-	-	烏帽子形、祭祀用か？	58
71	調査３	4 類	17.0	1.4	1.2	-	-		60
72	調査３	4 類	16.3	2.0	1.4	-	-	細棒だが回転運動はしない	61
73	調査３	4 類	7.9	1.3	0.8	-	-		63
74	調査２	5 類	12.3	3.1	1.3	-	-		50
75	調査２	5 類	6.3	2.4	1.0	-	-	未成品か？	46
76	調査２	5 類	5.4	2.5	1.6	-	-	未成品か？	397
77	調査３	5 類	9.1	3.6	1.9	-	-	女性像	48
78	調査３	5 類	10.5	2.9	0.8	-	-		51
79	調査３	5 類	10.1	2.7	0.7	-	-		52
80	調査３	5 類	6.4	2.4	1.4	-	-		47
81	調査３	5 類	6.2	1.5	1.6	-	-	未成品か？	49
82	調査４	5 類	7.5	2.7	1.2	-	-		54
83	調査４	5 類	16.9	3.6	1.1	-	-		53
84	調査４	5 類	10.1	3.2	0.7	-	-		55
85	調査５	5 類	4.5	(3.0)	2.0	無	無		124

人形類一覧表3

掲載No.	年次	資料名	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	頭部穴有無	頭部穴部位と様式	備考	指定No.
86	調査2	6類	3.7	1.8	(2.7)	-	-	タヌキ、手足可動式	127
87	調査2	6類	4.1	1.0	1.3	-	-	タヌキ、手足可動式	128
88	調査3	6類	4.0	1.4	2.2	-	-	ねずみ形の串人形、尻尾穴あり	130
89	調査3	6類	10.3	4.3	2.0	-	-	馬脚部、道祖神と関係か	131
90	調査3	6類	7.0	1.3	1.2	-	-	馬脚部、道祖神と関係か	132
91	調査3	6類	4.5	1.4	1.5	-	-	ねずみ形の串人形、尻尾穴あり	129
92	調査3	7類	8.2	4.0	1.5	-	-	「姥」（老体の女子・ツレによく使用されるとのこと）の面、二すじ穴五層ですから、かしら長三寸位のかしらに付けたもの	122
93	調査3	7類	9.1	2.2	0.1	-	-	横顔か？	441
94	調査3	7類	4.2	6.6	2.4	-	-	付喪神（つくもがみ）か？	123
95	調査2	7類	12.2	1.2	0.4	-	-		59
96	調査2	7類	8.9	1.0	1.5	-	-	半裁されている	426
97	調査2	7類	11.2	0.8	1.0	-	-	上下不明の未製品	402
98	調査2	7類	14.0	1.1	0.8	-	-	穿孔5箇所、転用品か？	407
99	調査2	7類	15.3	1.2	1.1	-	-		400

道具類一覧表1

掲載No.	年次	種　類	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	備　考	指定No.
100	調査2	刷毛	11.5	9.1	0.8		1
101	調査2	刷毛	12.3	(13.1)	0.6		2
102	調査5	刷毛	14.1	(9.0)	0.9		5
103	調査2	刷毛	12.3	17.4	0.8		3
104	調査2	刷毛（破片）	(10.1)	(4.7)	(0.4)		4
105	調査2	刷毛	(8.5)	4.5	0.2	磨砂刷毛	6
106	調査2	刷毛	(10.0)	3.1	0.6	磨砂刷毛	7
107	調査2	刷毛	23.1	4.8	0.7	磨砂刷毛	11
108	調査2	刷毛	13.0	3.3	0.7	磨砂刷毛	9
109	調査2	刷毛	14.8	5.9	a 0.7　b 0.8　c 0.9	磨砂刷毛	8
110	調査3	刷毛	(12.0)	6.0	0.6（0.3+0.3）	磨砂刷毛	10
111	調査2	棕櫚束	(25.0)	(20.0)	2.0	中国製刷毛か？	12
112	調査4	棕櫚束	(19.0)	13.0	1.2	中国製刷毛か？	13
113	調査2	棕櫚縄	16.8	10.5	-	刷毛製作用か？	382
114	調査2	平箆	11.7	1.4	0.4	赤漆	21
115	調査2	平箆	11.2	1.8	0.2	赤漆	29
116	調査2	平箆	11.9	1.8	0.5	黒漆	24
117	調査2	平箆	12.3	1.5	0.5	黒漆	27
118	調査2	平箆	8.9	1.6	0.2	黒漆	28
119	調査2	平箆	12.3	1.7	0.2	黒漆	30
120	調査2	平箆	11.4	1.7	0.3	黒漆	20
121	調査3	平箆	(7.4)	1.8	0.4	黒漆	22
122	調査2	平箆	14.2	2.3	0.7	黒漆	19
123	調査2	平箆	17.2	2.4	0.5	黒漆	23
124	調査2	平箆	13.7	2.3	0.5	黒漆	25

道具類一覧表２

掲載 No.	年次	種　類	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	備　考	指定 No.
125	調査２	平箆	(12.0)	(2.5)	0.3	黒漆	26
126	調査２	平箆	(14.3)	(2.2)	a 0.4 b 0.1	黒漆	33
127	調査２	平箆	10.6	2.2	a 0.5 b 0.3		32
128	調査２	箆	10.7	1.0	a 0.3 b 0.1		31
129	調査２	箆	13.2	0.8	0.4		258
130	調査２	箆	11.5	0.7	0.4		34
131	調査２	片丸箆	25.1	3.2	0.5		39
132	調査２	箆	16.0	1.4	0.5		433
133	調査３	箆	12.7	1.2	0.8		35
134	調査２	片丸箆	23.6	4.5	0.5		38
135	調査２	片丸箆	(12.5)	2.3	0.4		36
136	調査２	片丸箆	22.5	2.8	0.7		40
137	調査３	片丸箆	17.1	(2.4)	0.3		41
138	調査５	片丸箆	13.1	5.2	0.3		37
139	調査２	丸箆	18.6	4.4	0.4		44
140	調査２	丸箆	7.6	3.0	0.2		42
141	調査２	糸巻	8.4	2.0	0.9		231
142	調査２	糸巻	10.1	1.9	1.2	墨痕あり	225
143	調査２	糸巻	9.4	2.1	0.9	墨痕あり	232
144	調査２	糸巻	10.0	2.1	1.1	墨痕あり	228
145	調査２	糸巻	(7.9)	1.8	1.0		229
146	調査２	糸巻	9.9	1.8	1.0		230
147	調査２	糸巻	8.4	2.3	1.2		227
148	調査３	糸巻	9.0	2.0	1.0		223
149	調査３	糸巻	(9.9)	2.0	1.1		224
150	調査２	糸巻	14.4	(6.1)	(1.0)		233
151	調査４	糸巻	14.0	2.1	1.0		238
152	調査２	糸巻	14.2	2.1	1.2		234
153	調査２	糸巻	14.4	2.0	1.2		235
154	調査２	糸巻	(11.0)	2.0	1.2		236
155	調査２	糸巻	12.5	1.8	1.0		237
156	調査２	双孔円板	2.6	2.0	0.6		473
157	調査２	双孔円板	2.9	2.9	0.5		474
158	調査２	双孔円板	3.1	2.9	0.6		475
159	調査２	双孔円板	3.7	3.6	0.2		472
160	調査２	双孔円板	2.6	2.9	0.6		476
161	調査２	双孔円板	3.0	3.0	0.4		477
162	調査２	単孔円板	4.2	4.2	0.7		460
163	調査２	単孔円板	3.3	3.2	0.5		461
164	調査２	単孔円板	3.7	3.9	0.4		462
165	調査２	単孔円板	3.5	3.5	0.8		465
166	調査２	単孔円板	3.2	3.0	0.3		467
167	調査２	単孔円板	3.1	3.4	0.4		466
168	調査４	単孔円板	2.6	2.5	0.4		468
169	調査４	単孔円板	2.8	2.7	0.3		469
170	調査２	双孔円板	3.5	3.5	0.8		463
171	調査２	単孔円板	4.6	(2.4)	0.4	片面漆塗	471

道具類一覧表3

掲載 No.	年次	種　類	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	備　考	指定 No.
172	調査2	単孔円板	3.2	(2.8)	0.6		464
173	調査2	無孔円板	3.7	3.7	0.6		459
174	調査2	無孔円板	2.1	2.1	0.3		456
175	調査2	無孔円板	2.6	2.7	0.7		457
176	調査2	無孔円板	2.7	2.7	0.5		458
177	調査2	灯火器	11.5	2.0	1.2		371
178	調査2	灯火器	10.2	2.6	1.1		370
179	調査2	灯火器	12.5	3.2	0.9		372
180	調査2	栓	7.1	3.1	2.9		344
181	調査2	栓	5.7	3.0	2.8		345
182	調査2	栓	4.0	1.5	1.1		346
183	調査2	栓	5.8	3.1	2.2		347
184	調査2	栓	(7.1)	1.7	1.6	穿孔あり	351
185	調査2	栓	8.3	3.0	2.9	穿孔あり	350
186	調査2	栓	5.9	3.0	2.7	当たりあり	342
187	調査2	栓	6.3	2.5	2.5		343
188	調査2	栓	4.3	2.5	2.2		348
189	調査2	栓	6.0	4.2	a 1.2　b 4.1 c 2.0		354
190	調査2	曲物底板	8.2	7.9	(残存高) 0.8		281
191	調査2	曲物蓋	7.3	6.8	(高) 1.05		275
192	調査2	八角形板	8.4	7.5	0.3		279
193	調査2	曲物底板	8.0	7.5	0.3		280
194	調査2	折敷か	14.0	(5.0)	0.1		284
195	調査5	曲物底板	7.7	7.4	0.4	赤漆付着	274
196	調査2	杓子	(11.2)	(9.7)	(3.3)		265
197	調査2	杓文字	(11.7)	7.5	0.5		266
198	調査2	蓋	(6.8)	(4.5)	1.7	鍋用か？	282
199	調査2	蓋	18.5	(3.8)	0.8	焼印あり	269
200	調査2	把手	8.0	2.7	0.8	円形容器の把手片側	374
201	調査2	把手	5.1	1.4	0.4		373
202	調査5	木槌	10.7	3.9	3.9		355
203	調査5	円盤	7.7	7.3	0.9	紡錘車か？	470
204	調査2	印形木製品	3.0	2.1	(高) 2.6		415
205	調査2	簓（ささら）木	(16.1) (10.7)	2.7	0.6	同一個体の断片２つ	453
206	調査3	題箋軸	10.7	1.9	1.0	軸先に穿孔有り	222
207	調査2	錐	8.8	1.3	1.2		17
208	調査2	錐	12.8	0.9	0.8		18
209	調査4	煙管雁首	7.9	1.5	(高) 3.6	金属製品、鍍金残存	369
210	調査2	刀子	23.6	1.4	0.6	(刃部) 13.9（柄）9.7	241
211	調査4	刀子	22.7	2.4	(刃部) 0.2 (柄) 1.5		16
212	調査2	刀子鞘	9.5	1.6	1.1		14
213	調査2	刀子鞘	10.6	2.2	0.9		15
214	調査3	装飾板	5.55	4.5	0.5	人形小道具か？	245
215	調査4	装飾板	(2.7)	5.2	0.5	人形小道具か？	244
216	調査4	装飾板	(3.7)	7.6	0.45	人形小道具か？	242
217	調査2	木球	5.6	(5.2)	5.3	毬杖の球	367

道具類一覧表４

掲載 No.	年次	種　類	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	備　考	指定 No.
218	調査２	木球	5.2	4.9	4.4	毬杖の球	366
219	調査２	木球	（高）5.9	(4.4)	(3.7)	毬杖の球	368
220	調査５	独楽	5.3	4.8	（高）3.2		365
221	調査２	賽子	3.5	3.6	3.5		375
222	調査２	将棋駒	3.1	1.4	0.5	ヒノキ	364
223	調査２	下駄	21.2	8.3	2.25		250
224	調査２	下駄	21.5	7.9	3.0	漆付着	252
225	調査２	下駄	15.9	7.2	2.15		251
226	調査２	下駄	16.4	9.0	1.5		253
227	調査２	下駄歯	7.7	11.7	3.0	漆塗	254
228	調査５	下駄歯	8.1	(6.8)	1.6		255
229	調査２	櫛	(8.0)	(4.5)	0.5		249
230	調査２	櫛	(5.2)	(2.1)	0.4	赤漆・金泥	248

装飾部品一覧表

掲載 No.	年次	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	備　考	指定 No.
231	調査２	9.0	4.1	1.0		384
232	調査２	(9.4)	1.3	0.6	波形	390
233	調査２	20.4	3.0	0.7	波形	427
234	調査２	(6.4)	(3.2)	1.0	葉形	386
235	調査２	4.4	2.0	1.2	神楽鈴形	387
236	調査２	5.9	5.6	1.7	火輪形	135
237	調査２	8.3	4.2	1.8	花形	388
238	調査２	6.1	2.3	(1.0)		393
239	調査２	5.5	1.0	0.7	刻目あり	442
240	調査２	(6.9)	7.3	2.4	葉状	385
241	調査３	(13.1)	1.5	0.4	波形	391
242	調査４	12.3	6.0	1.3	葉形	392
243	調査２	8.4	2.7	3.1		411
244	調査２	(16.5)	6.9	1.5	破風形	394
245	調査２	(6.4)	2.5	0.7	穿孔あり	389
246	調査２	6.8	1.6	1.0		431
247	調査２	7.3	(3.6)	0.7	菊水文、穿孔あり	243
248	調査２	7.6	(3.8)	0.4	蓮華文	278
249	調査３	5.7	(3.3)	0.6	車輪文	240
250	調査３	(9.2)	2.0	0.1	水鳥画（タマシギまたはウ）	434
251	調査３	12.4	1.9	0.2	花卉墨描	435

用途不明品一覧表

掲載 No.	年次	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	備考	指定 No.
252	調査２	4.3	2.1	1.8		396
253	調査２	4.8	2.2	2.0		353
254	調査２	7.2	3.0	(1.6)		349
255	調査２	4.5	2.8	2.2		352
256	調査２	4.1	5.2	1.6	台座か	439
257	調査２	3.9	5.1	1.1	台座か	440
258	調査２	(3.8)	(5.6)	1.8	八角形台座か	422
259	調査２	6.3	3.4	0.6	隅欠方形か	420
260	調査２	(3.0)	(8.4)	0.7	円形の端部を切断か	417
261	調査２	3.9	3.7	2.8		454
262	調査２	5.1	5.3	3.1		455
263	調査２	(板のみ）4.2 (板＋木釘）4.4	(板のみ）1.9 (板＋木釘)(2.0)	0.5		421
264	調査２	2.5	8.0	0.5		419
265	調査２	(7.9)	2.0	0.8		423
266	調査２	5.8	5.4	1.2		399
267	調査２	15.0	6.0	0.4		430
268	調査２	19.7	(3.4)	0.6		287
269	調査２	18.3	3.0	0.6		432
270	調査２	1.7	15.7	0.9		424
271	調査２	20.5	1.8	1.3	簡の可能性もある	447
272	調査２	10.3	1.0	0.7	棒状（刻目なし）	444
273	調査２	8.9	1.1	0.9	棒状（刻目あり）	443
274	調査２	10.1	0.9	0.8	棒状（刻目あり）	414
275	調査２	15.4	1.5	0.7	棒状（刻目あり）	416
276	調査２	9.0	0.6	0.5	組物の一部	409
277	調査２	15.3	0.9	0.8	組物の一部	405
278	調査３	(13.7)	0.8	0.6	棒状	445
279	調査３	13.0	1.0	0.3	刀子形	446
280	調査３	(5.0)	3.0	0.2	撥形	356
281	調査３	15.0	1.8	0.2	匙形	45
282	調査４	10.1	2.4	0.5	匙形	43
283	調査４	(7.4)	1.4	0.3	札形	425
284	調査２	12.2	1.4	1.3		404
285	調査２	14.3	1.0	0.8	先端が黒く着色している	408
286	調査２	13.1	3.1	2.4	把手か	410
287	調査２	11.7	1.3	0.7	かご枠木か？	429
288	調査２	10.5	1.0	0.6	かご枠木か？	406
289	調査２	12.8	0.8	0.5	かご枠木か？	428
290	調査３	19.0	1.2	1.1	かご枠木か？	401
291	調査２	6.1	0.3	0.3		260
292	調査２	10.1	0.6	0.3		261
293	調査２	15.6	0.6	0.5		256
294	調査２	(10.4) (5.2)	0.6	0.6	紡錘車軸か？ 同一個体断片２つ	263
295	調査２	16.3	0.8	0.4		262
296	調査２	14.9	0.5	0.4	紡錘車軸か？	257
297	調査２	10.0	0.5	0.4		259
298	調査５	20.6	0.7	0.5	端部が尖る	264

ミニチュア一覧表

掲載 No.	年次	種　類	口径（cm）	器高（cm）	底経（cm）	備　考	指定 No.
299	調査２	木札（赤漆塗方形板）	（長さ）3.2	（幅）2.9	（厚さ）0.4	赤漆塗	436
300	調査２	木札（焼印）	（長さ）3.1	（幅）3.2	（厚さ）0.5	焼印あり	437
301	調査２	木札	（長さ）2.8	（幅）2.5	（厚さ）0.3		438
302	調査２	車輪形	（長さ）8.9	（幅）2.6	（厚さ）0.6	人形小道具	418
303	調査２	船形	（長さ）10.2	（幅）2.1	（厚さ）1.2	祭祀用か	133
304	調査２	櫛形	6.8	3.0	6.4	人形小道具	296
305	調査２	椀／盃（挽物）	8.6	3.9	4.7		298
306	調査２	椀形（挽物）	4.2	2.5	4.0	人形小道具	299
307	調査２	椀形（挽物）	4.6	3.1	2.5	人形小道具	300
308	調査２	椀形（挽物）	4.1	3.0	2.4	人形小道具	297
309	調査２	椀形（挽物）	5.0	3.6	2.9	人形小道具	294
310	調査２	椀形（挽物）	4.1	3.0	2.3	人形小道具	295
311	調査２	椀形（挽物）	4.6	3.2	2.0	人形小道具	301

漆器類（椀皿類）一覧表１

掲載 No.	年次	器種	口径（cm）	器高（cm）	底経（cm）	備　考	指定 No.
312	調査２	椀	12.7	3.1	7.9	挽物、赤漆か？	302
313	調査２	椀か皿	-	(0.9)	7.6	挽物	303
314	調査２	破片	-	(2.1)	3.5		319
315	調査２	椀	(10.8)	3.9	5.6		307
316	調査２	椀	(10.9)	(3.9)	-	時代すこしさがるか？	308
317	調査２	椀	(12.9)	5.4	6.7	大胆に絵を描く、鶴、石黄で松	325
318	調査２	椀	(11.0)	(3.8)	-	わざと高台を削る	326
319	調査２	椀	(9.4)	4.9	4.7	桐文、針描き、精緻	327
320	調査２	椀	(11.5)	(4.9)	-	使い込まれている	328
321	調査２	椀	-	(2.3)	-	針描されている	329
322	調査２	椀	10.2	3.1	4.6		321
323	調査２	椀	(8.4)	(2.6)	-	３色使用	323
324	調査２	椀	(11.5)	(4.8)	-	高台寺？蒔絵にもみられる	324
325	調査２	椀	(12.8)	(7.1)	-	大きな巴文を大胆に描く	320
326	調査２	破片	(12.0)	(4.4)	-	塗としてはよい	330
327	調査２	破片	(12.7)	(1.2)	-	蓋	305
328	調査２	蓋	(10.6)	2.0	-	蓋または身、茶器関係	304
329	調査２	椀	-	(7.3)	-		331
330	調査２	椀	(12.7)	6.4	6.0		332
331	調査２	椀	(12.4)	8.1	6.1	内面をわざと焼く場合もあるが、この資料は火事によるものか？おめでたい文様、水引模様。	333
332	調査２	椀	(11.3)	5.0	5.8	穴が開いており、漏斗に転用して再利用	334
333	調査２	椀	(11.0)	(5.4)	-	大胆な文様	335
334	調査２	椀	(10.0)	4.0	5.0	鶴・亀・松、正月・茶会などハレの日に使用、銀使用	336
335	調査２	椀	-	(4.0)	4.9	南部箔	322
336	調査２	椀	(10.6)	3.5	4.1	寺などで使用されるもの	309
337	調査２	椀	(12.2)	3.0	6.0	根来風、実用品として使用、寺などで使用	310
338	調査２	椀	(12.2)	5.0	5.8	フリーハンド	311

漆器類（椀皿類）一覧表２

掲載 No.	年次	器種	口径（cm）	器高（cm）	底経（cm）	備　考	指定 No.
339	調査２	椀	(8.9)	2.0	(つまみ径) 4.4	南部箔、石黄使用、ブナ材か？	306
340	調査２	椀	-	(6.7)	-	鶴・亀・松？古手	337
341	調査２	椀	(12.2)	6.0	6.0	色を（内外面で）わけているもの	338
342	調査２	椀	(12.0)	(4.8)	-		339
343	調査２	椀	(11.7)	4.8	6.0	1630 ～元禄で終了、３色使用、フリーハンドで描く	340
344	調査２	椀	(12.0)	(4.9)	-		341
345	調査２	椀	(11.0)	3.9	5.6		312
346	調査２	椀	-	(4.0)	-	赤色、大坂城三の丸出土例に類例、桃山期に特徴的	314
347	調査２	椀	-	(4.0)	-	同上	315
348	調査２	椀	-	(4.1)	-	同上	316
349	調査２	椀	-	(2.6)	-	同上	317
350	調査２	椀	-	(1.5)	-	同上	318
351	調査２	椀	(9.9)	(3.0)	-	根来系、ケヤキ製、良品	313
352	調査２	皿か	(7.5)	1.5	7.5		292
353	調査２	筒形	(6.7)	6.8	7.1		293

漆器類（板状品）一覧表

掲載 No.	年次	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	備　考	指定 No.
354	調査２	(4.6)	(8.4)	0.8		377
355	調査２	4.8	19.4	0.6	箱側板か	289
356	調査２	(1.4)	(15.4)	(0.7)	棒状	403
357	調査２	3.1	2.3	1.3	折敷脚部か、側面赤漆塗	378
358	調査２	15.8	(1.6)	0.8	棒状赤漆塗	398
359	調査２	(10.2)	2.7	(1.2)	箱側板か	288
360	調査２	3.5	2.1	(1.2)	筆軸か	376
361	調査２	6.5	(1.8)	(0.9)		380
362	調査２	6.2	(3.2)	0.7		379
363	調査２	5.2	10.3	0.7	板状	290
364	調査２	(9.5)	0.6	0.5	棒状	412
365	調査２	(11.1)	(2.3)	0.3	板状、金箔装飾あり	383
366	調査２	(5.2)	1.1	0.2	赤漆・黒漆装飾あり	395
367	調査２	11.4	3.5	1.0	漆僅かに残存、皿立か	381
368	調査３	(7.0)	0.7	0.5	棒状（赤漆・金泥）	413

墨書資料一覧表 I

掲載 No.	年次	種類（大分類）	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	指定 No.	種類（小分類）
369	調査 2	掟札	4.6	9.5	0.5	199	紀年銘
370	調査 2	巡礼札	8.9	3.2	0.4	220	地名・(紀年銘)
371	調査 2	付札か	10.2	2.5	0.6	143	紀年銘
372	調査 2	付札か	8.0	1.4	0.3	139	人名
373	調査 2	付札か	8.0	1.6	0.4	145	人名
374	調査 2	付札か	10.0	2.3	0.2	146	地名
375	調査 2	付札か	8.0	2.0	0.3	142	地名
376	調査 2	付札か	2.2	6.0	0.1	200	
377	調査 2	付札か	9.9	4.3	0.1	221	
378	調査 3	付札	11.5	3.4	0.4	167	紀年銘
379	調査 3	付札	7.8	1.5	0.2	159	人名
380	調査 3	付札	10.4	2.2	0.3	165	人名
381	調査 3	付札	6.6	1.8	0.3	168	人名
382	調査 3	付札	9.8	1.9	0.3	170	人名
383	調査 3	付札	10.3	2.0	0.3	157	
384	調査 3	付札	(14.4)	2.8	0.3	158	
385	調査 3	付札	15.4	1.9	0.2	160	
386	調査 3	付札	12.4	3.3	0.5	163	
387	調査 3	付札	15.8	1.5	0.6	171	
388	調査 3	付札か	8.5	1.7	0.2	192	人名
389	調査 3	付札か	9.0	1.5	0.2	169	人名
390	調査 3	付札か	9.1	2.5	0.1	172	人名
391	調査 3	付札か	(7.9)	2.8	0.6	194	人名・地名
392	調査 3	付札か	(8.8)	1.5	0.2	193	地名
393	調査 3	付札か	(10.9)	2.2	0.2	191	
394	調査 3	付札か	(13.6)	2.9	0.4	173	
395	調査 3	付札	(9.6)	1.7	0.3	154	人名
396	調査 3	付札	(9.8)	3.0	0.3	181	人名
397	調査 3	付札	7.3	1.7	0.1	149	
398	調査 3	付札	5.6	(3.4)	0.7	150	
399	調査 3	付札	(12.7)	1.6	0.3	152	
400	調査 3	付札か	(16.1)	1.4	0.2	182	紀年銘・人名
401	調査 3	付札か	(6.2)	(1.3)	0.1	206	人名
402	調査 3	付札か	(6.5)	1.0	0.2	215	人名
403	調査 3	付札か	(13.7)	3.3	0.3	177	人名
404	調査 3	付札か	9.6	1.3	0.2	183	人名
405	調査 3	付札か	13.8	1.7	0.2	184	人名
406	調査 3	付札か	(10.8)	2.4	0.6	185	人名
407	調査 3	付札か	14.5	2.6	0.3	214	人名
408	調査 3	付札か	(12.3)	1.6	0.3	216	人名
409	調査 3	付札か	(5.2)	3.4	0.3	217	人名
410	調査 3	付札か	(5.4)	2.1	0.2	189	人名
411	調査 3	付札か	6.1	1.6	0.2	218	人名
412	調査 3	付札か	4.5	(2.5)	0.2	203	地名
413	調査 3	付札か	6.9	2.5	0.4	204	地名
414	調査 3	付札か	6.2	2.0	0.2	213	地名
415	調査 3	付札か	(9.0)	1.1	0.4	187	地名・人名
416	調査 3	付札か	(6.1)	(2.9)	0.4	176	

墨書資料一覧表２

掲載 No.	年次	種類（大分類）	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	指定 No.	種類（小分類）
417	調査３	付札か	(13.1)	2.7	0.2	151	
418	調査３	付札か	(3.2)	2.9	0.3	202	
419	調査３	付札か	4.4	2.0	0.4	205	
420	調査３	付札か	19.7	3.5	0.3	208	
421	調査３	付札か	(5.0)	1.6	0.2	179	
422	調査３	付札か	(4.1)	1.5	0.1	180	
423	調査３	付札か	5.8	1.5	0.3	155	
424	調査３	付札か	11.5	1.5	0.2	188	
425	調査４	付札	7.2	1.6	0.3	174	
426	調査２	荷札	18.1	3.5	0.5	147	アルファベット木簡
427	調査２	荷札	9.0	1.4	0.2	140	人名
428	調査２	荷札	18.2	2.2	0.9	141	地名
429	調査２	荷札か	15.2	2.5	0.6	246	人名
430	調査３	荷札	16.0	1.8	0.4	161	人名
431	調査２	荷札	(11.6)	2.5	0.4	138	
432	調査３	荷札	12.7	2.0	0.5	156	人名
433	調査３	荷札	(11.9)	3.1	0.5	162	地名（？）
434	調査３	荷札か	8.2	(3.5)	0.4	207	人名
435	調査３	荷札か	(17.9)	2.1	0.1	178	人名
436	調査３	荷札か	10.8	1.9	0.2	153	
437	調査３	荷札か	8.6	(2.1)	0.2	164	
438	調査４	荷札	20.6	3.0	0.6	175	
439	調査２	木製品	13.7	2.2	1.0	239	糸巻
440	調査２	木製品	(7.1)	(17.3)	0.4	267	曲物側板
441	調査２	木製品	6.7	(9.2)	0.5	273	曲物底板
442	調査２	木製品	(4.8)	12.0	0.6	270	曲物蓋、紀年銘
443	調査３	木製品	22.2	4.2	0.4	291	桶側板
444	調査３	木製品	(11.9)	(7.9)	0.3	285	箱蓋か
445	調査３	木製品	8.9	(4.0)	0.4	272	柄杓底板、人名
446	調査３	木製品	(8.9)	1.3	0.3	209	箆か、人名
447	調査３	木製品	10.2	(4.9)	0.4	277	曲物蓋
448	調査３	木製品	10.8	2.1	0.3	283	曲物蓋か
449	調査３	木製品	(径）7.2	(器高）(3.7)	-	268	曲物
450	調査３	木製品	9.2	9.1	0.3	276	曲物蓋、地名・人名
451	調査５	木製品	(3.9)	9.8	0.3	271	曲物蓋
452	調査５	木製品	2.1	8.4	1.0	226	糸巻
453	調査２	将棋駒	3.2	2.7	0.8	357	
454	調査２	将棋駒	3.1	2.7	1.1	358	
455	調査３	将棋駒	(2.7)	(1.4)	0.1	359	
456	調査３	将棋駒	2.7	(2.4)	0.9	363	
457	調査３	将棋駒	2.8	2.4	0.6	362	
458	調査３	将棋駒	3.1	2.7	1.0	360	
459	調査４	将棋駒	3.1	2.7	1.0	361	
460	調査２	塔婆	37.0	6.2	0.4	136	
461	調査３	塔婆か	12.4	(1.4)	0.2	186	
462	調査２	経木か	17.9	2.2	0.4	137	
463	調査３	お守札か	19.1	2.8	0.6	166	人名・地名
464	調査２	札	3.8	3.6	0.6	201	人名（両側面に墨書）

墨書資料一覧表3

掲載 No.	年次	種類（大分類）	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	指定 No.	種類（小分類）
465	調査2	板状品	4.1	2.8	0.2	144	
466	調査2	板状品	27.3	3.8	0.9	247	
467	調査3	板状品	(7.4)	2.5	0.2	148	
468	調査3	板状品	11.2	2.3	0.2	286	
469	調査3	板状品	(11.5)	2.1	0.3	195・196	
470	調査3	板状品	12.0	4.2	0.2	197	
471	調査3	板状品	17.3	2.1	0.4	219	
472	調査3	板状品	6.2	1.7	0.4	190	
473	調査3	板状品	(12.7)	3.4	0.3	198	
474	調査4	板状品	7.5	3.0	0.7	211	
475	調査4	板状品	8.1	2.7	0.5	210	
476	調査5	板状品	(8.0)	2.7	0.2	212	

平成 30 年度　京都市埋蔵文化財出土遺物文化財指定準備業務報告書
御土居跡（西九条周辺）出土品

発行日　2019年3月31日
発　行　京都市文化市民局
住　所　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488
編　集　公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所
住　所　京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435　℡ 075-415-0521
http://www.kyoto-arc.or.jp/
印　刷